

令和 7 年度使用

中学校において使用する教科用
図書の選定に必要な資料

隠岐採択地区教科用図書採択協議会

各発行者記号は次のとおりである。

記 号	発 行 者 名	記 号	発 行 者 名
A	東 京 書 籍	L	啓 林 館
B	大 日 本 図 書	M	山 川 出 版 社
C	教 育 図 書	N	数 研 出 版
D	開 隆 堂	O	日 本 文 教 出 版
E	学 校 図 書	P	G a k k e n
F	三 省 堂	Q	自 由 社
G	教 育 出 版	R	育 鵬 社
H	教 育 芸 術 社	S	学 び 舎
I	光 村 図 書	T	あ か つ き 教 育 図 書
J	帝 国 書 院	U	日 本 教 科 書
K	大 修 館 書 店	V	令 和 書 籍

選 定 に 必 要 な 資 料

国語科

NO. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	○「話すこと・聞くこと」は青、「書くこと」は緑など領域ごとに色分けされ、どの領域を学ぶかが視覚的にわかりやすいようになっている。 (1年p.6) ○参考資料などをデジタル化し二次元コード経由にすることで、従来より3学年分で100ページ以上が削減され、持ち運びの負担軽減が図られている。 ○各学年末に特定のテーマについて多角的な視点から考える新教材「未来への扉」が設けられている。 (2年p.216-223)	○話し合いについての学習では、例を豊富に示すことで、協働的な学びの中での合意形成の仕方がわかりやすいよう工夫されている。 (3年p.202-208) ○「読むこと」の学習で身につけた力を「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材で活かせるようになっており、「言葉の力」が自然と深まりながら、確実に定着する仕組みになっている。 (1年p.126-133)	○古典単元では、全学年に、折り込みを使ったビジュアル資料や朗読動画があり、古典学習への関心を引き出すことができるようになっている。 (1年p.140) ○文法教材では、苦手意識のある生徒も取り組みやすいようにゲーム仕立てになっている。 (3年p.48) ○「本との付き合い方」では、著名人の想いが綴られており、生徒が本を読むことについて考えやすくなっている。 (3年p.178-185)	○「『地域の魅力』の紹介文」では、地域の題材を取り上げた学習に取り組むことで、ふるさと学習と関連づけられるようになっている。 (2年p.68-72) ○全学年に「情報の整理」に対応する教材と、「情報と情報の関係」に対応する教材を設けている。 (1年p.128)	○他教科と関連する内容を多く取り上げ、関連マークを示して、国語の学習内容を他教科等に生かしやすいようになっている。 (3年p.64) ○「未来への扉」では、単元ごとに関連するテーマを示し、学習内容を実生活や社会と関連づけられるようになっている。 (1年p.9,65) ○さまざまな読書の在り方を提示することで、生徒が本に手を伸ばすきっかけを生み出している。 (2年p.176)	○各単元の扉に、四季を味わう詩歌を印象的な写真とともに掲載して、感性を磨くことができるようになっている。 (3年口絵, p.49) ○「言葉の力」では、内容を図示したものがつけられ、よりイメージがしやすいようになっている。 (2年p.64-110) ○「デジタルコンテンツ一覧」では、予習や復習に活用できるデジタルコンテンツが示されており、家庭学習においても活用できるように工夫されている。 (3年p.313-314)	○身につける「言葉の力」を、一学年の中で、そして三年間にわたって、系統的に配置している。学習が発展しながら積み上がることで、学びの深まりを実感できる工夫がされている。 ○各学年末に特定のテーマを取り上げた教材を設け、1年間で身につけた力を活かし、考えを深めることができるようになっている。 (1年p.220-229, 2年p.216-215, 3年p.214-223)
F	○「領域別教材一覧」の付けたい力と本編の目標を対応させることで、授業のねらいが明確になるよう工夫されている。 (1年p.6-8,36-39) ○資料編の参考資料には学習用語辞典「小倉百人一首」「読書感想文の書き方」など多岐にわたる内容が掲載され、生徒の主体的な学びを促すよう工夫されている。	○「読む」領域では、教材から効果的に身に着けることができる読解のスキルを系統的に配置し、3年間を通して22種の「読み方」を身に着けることができるよう工夫されている。 (1年p.78,巻末) ○「読むこと」領域終末の「学びを広げる」の学習活動が、次の「書くこと」領域の教材になるように構成され、領域を関連付けた学習活動がしやすいよう工夫されている。 (2年p.198-204)	○各学年で「歌の言葉」として有名歌手の作品を掲載し、言葉への興味・関心が高まるよう工夫されている。 (2年P.236) ○各学年の第6単元「情報を関連づける」は情報の扱い方に特化し、単元の冒頭に漫画を掲載することで、「読み方を学ぼう」の解説、漢字ドリル、古文の朗読音声などが収録され、学びを深めたり家庭学習に生かしたりできるよう工夫されている。 (2年p.100,110,112)	○「読書の広場」には「古事記」が掲載されており、本県にゆかりのある内容を通して古文に親しむ態度を育てることにつなげやすい内容になっている。 (1年p.280-285) ○デジタルコンテンツには「読み方を学ぼう」の解説、動画、漢字ドリル、古文の朗読音声などが収録され、学びを深めたり家庭学習に生かしたりできるよう工夫されている。 (1年p.146-157)	○音節、語順、慣用句などの語句や文法の学習では、英語との比較や例示を用いることで、言葉への興味・関心を高められるよう工夫されている。 (1年p.329,2年p.247,3年p.163) ○「情報を関連づける」では、情報を関連付けて読み取ったり意見を書いたりして、現代社会の課題について考えられるよう工夫されている。 (1年p.146-157)	○古典教材では、文語と口語の文字サイズやフォント・色を変える、現代的なイラストを添える、コラムを挿入するなど、内容理解を助けるよう工夫されている。 (1年p.118,2年p.113,3年p.128-129) ○各学年ともに論理的文章の最初の学習では、折込ページによって文章の構造がわかりやすく示され、論理的読解力を身に着けるための工夫がなされている。 (3年p.53)	○各単元は「学びの道しるべ」で目標と学習の流れを示し、「学びを広げる」で定着を図るという学習過程になっており、学習の見通しが立てやすくなっている。 (3年p.168) ○各教材の学習過程に沿って「思考の方法」が位置付けられており、考えを整理したり深めたりするための基本的な方法を、他教科等の学習や社会生活に活用できるよう工夫されている。 (3年p.16)

選 定 に 必 要 な 資 料

国語科

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
G	○冒頭には入門期教材を設け、領域ごとに学びをスモールステップ化し、小中の円滑な接続を図ることができるよう工夫されている。(1年p. 16-47) ○教材の読み方や読むときの観点、学習活動のポイントを示す「学びナビ」を教材の前に配置して、生徒が目的意識をもって学習に取り組めるよう工夫されている。	○古典では「おくのほそ道」と杜甫と李白の漢詩を取り上げ、相互のつながりを捉えることでそれぞれの作品の理解が深まるよう工夫されている。(3年p. 118-140) ○説明文教材では、異なる職業、立場で社会で活躍してきた筆者の文章を読み比べることで、自分の考えを深めることができるよう工夫されている。(3年p. 92-104)	○「情報・メディアと表現」では、生徒になじみのある漫画を掲載することで、興味・関心をもって学習に取り組む、表現の特徴について考えられるよう工夫されている。(1年p. 232-235) ○「学びのチャレンジ」では、行事や他教科等とのつながりを意識した題材を問題に取り上げることで、学習意欲を高めるよう工夫されている。(2年p. 212-224)	○学習用語の初出ページや解説ページをまとめた索引が巻末に設けられ、家庭学習の際に活用できるよう工夫されている。(1年p. 323-324) ○近代文学作品を各学年1作品ずつ掲載する他、「広がる本の世界」では3年間計334冊の本を27回にわたって紹介しており、読書への意欲を喚起するよう工夫されている。	○「情報・メディアと表現」の「実用文の情報を捉えて生かす」では、取扱説明書や広告、料理のレシピなどを取り上げ、学んだことを実生活で生かせるよう工夫されている。(3年p. 110-113) ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材末尾の「学びを生かす」では、具体例を挙げ、学んだことを他教科等の学習や生活に生かせるよう工夫されている。(1年p. 47)	○「『ふるさと』を巡る」では、文学にゆかりのある各地の風景写真を掲載し、作者や作品とともに情景を確認できるよう工夫されている。(裏表紙) ○1年生は37字×16行、2・3年生は42字×18行と、発達の段階を踏まえてページの書式が調整されている。(1年p. 38-43, 3年p. 24-29)	○SDGs教材を全学年に設け、文章を読み、考え、意見を交流することの繰り返しにより、主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫されている。(3年p. 222-231) ○教材の前の「学びナビ」(教材の読み方や読むときの観点、学習活動のポイントを記したもの)によって学びを見通し、目的意識をもって学習に取り組めるよう工夫されている。(1年p. 36-37)
I	○「価値を語る」では、文章を比較する観点を具体的に示すことで、気づいたことを話し合い、読みを深めることができるよう工夫されている。(2年p. 166-179) ○全学年で「持続可能な開発目標(SDGs)」と情報を関連付けた単元が設定されており、社会・世界との関わりを考えさせるよう工夫されている。	○音読・発表の仕方、ノートを取り方、辞典の使い方など、中学校の学習のスタートにあたって学び方の確認ができるようになっている。(1年p. 16-20) ○「学びへの扉」では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から自己の学習を振り返ることができるようになっている。(3年p. 134)	○古典の学習では、作品の登場人物や全体像の図解、関連事項のつながりの図などが掲載され、視覚的に捉えやすいようになっている。(1年p. 156, 2年p. 141-145) ○「資料や機器を活用して話す」では、「コピペ」が題材例として使用されており、身近な話題をもとに興味・関心を持てるよう工夫されている。(2年p. 33)	○巻頭折込ページには、「思考の地図」と題して、発達の段階に適した思考ツールが紹介されており、活用を通して思考が深められるよう工夫されている。(1年p. 9-10) ○「本の世界を広げよう」では、3年間計447冊の本を紹介することで、読書への意欲を喚起する工夫がされている。(3年p. 94-96)	○「学習の見通しをもとう」には、他教科との関連が明記され、カリキュラム・マネジメントを意識した指導計画を編成しやすいよう配慮されている。(1年p. 6-8)	○巻末に「ICT活用のヒント」が掲載され、学習で効果的にICTを活用できる場面を明示して、日常的に活用できるようになっている。 ○「言の葉ポケット」では、「～～するときの表現」と題して、様々な場面で使える表現を積極的に紹介している。	○巻末の「語彙ブック」には、思考や心情を的確に言語化するための語彙が多数紹介されており、表現力や思考力の育成につながるようになっている。 ○CBTでの書き込みや自己採点が可能な問題などのデジタルコンテンツの一覧表を巻末に配置して、自主学習や家庭学習での活用の幅が広がるようになっている。

選 定 に 必 要 な 資 料

書写科

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	○主な毛筆教材は、1年3教材、2年3教材、3年なしとなっている。硬筆教材として国語科教科書掲載の小説・古文が各1教材ある他に、毛筆と関連付けて学習する教材が掲載されている。	○「書写のかぎ」において、そのページの大事な内容が簡潔にまとめられている。 ○「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」という流れが簡潔でわかりやすくまとめられている。 ○1年「はじめに」の「基本の点画の書き方」や「字形と配列を整える書き方」では、小学校の学習内容を確認できるよう配慮されている。(p. 10-13)	○「高校生が大活躍」など、生徒が将来のことと書写で学んだことをリンクして意識し、学習に興味を持てるようになっている。 ○学校生活や家庭生活の中での疑問やつまずきをもとにした活動が設定されており、興味・関心を持てるよう工夫されている。(p. 24-25, 62-63)	○「文字といっしょに」において、石州半紙(島根)が取り上げられている。また、その他の地域の伝統工芸にも関心が向けられるようになっている。(p. 58-59) ○職場訪問や防災訓練といった地域に関わる学習で書写の学習を活用した例を示し、参考できるようになっている。(p. 39-41, 65-67)	○「教科関連マーク」をつけることで、他教科とのつながりを意識しやすくなっている。(p. 34) ○各学年の最後に「書写テストに挑戦」が設けられており、各学年の内容を振り返ることができる。(p. 44, 70, 88)	○「書き初めをしよう」には多くの教材例が示され、選択できるよう配慮されている。(p. 92-93)	○硬筆文字から学習のポイント(「書写の鍵」)に気づき、毛筆で確かめ、硬筆で他の文字を書くことで学びを生かし、振り返ることができるよう単元の学習過程が工夫されている。 ○行書の特徴的な4つの動きをパターン化して示し、パターンを組み合わせることにより行動の動作を習得しやすいよう工夫されている。
F	○主な毛筆教材は、1年4教材、2年3教材、3年なしとなっている。毛筆の後に書き込み式の硬筆教材「書いて身につけよう」が配置されている。	○「書き方を学ぼう」では、右ページで書き方をつかんでからポイントがどこに使われているかを見つけ、左ページを見て書く構成になっている。(p. 34-35) ○「毛筆補助教材」では、同じ教材の楷書と行書を並べて豊富に掲載し、比較して学習できるよう配慮されている。(p. 87-89)	○国語教科書掲載の詩や歌詞の手書き文字を掲載し、硬筆への興味関心を持てるよう配慮されている。(巻頭・巻末) ○「身のまわりの文字」では、さまざまな文字を取り上げ、生徒が興味を持ちやすいようになっている。(p. 68-71)	○「情報誌を作ろう」では、地域の魅力をまとめることが目的となっており、ふるさと教育として地域と結びつくようになっている。(p. 64-65)	○「葉書の書き方」「情報誌を作ろう」など、国語科の内容とリンクした教材が見受けられる。	○単元末に、硬筆の適用題と学んだことを自分の言葉で書き残す欄が設けられ、単元の学びを振り返ることができるようになっている。(p. 43) ○巻末に二次元コード一覧表があり、必要な資料を探しやすいよう工夫されている。(p. 104)	○右ページには書き方のポイント、左ページには教材というシンプルな紙面構成にすることで、生徒が学習過程を捉えやすいよう工夫されている。 ○全11教材による書き込みページでは、毛筆での学びを踏まえて書くことにより、実生活で生かせる技能が身につけられるようになっている。

選 定 に 必 要 な 資 料

書写科

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
G	○主な毛筆教材は1年4教材、2年3教材、3年1教材となっている。主な硬筆教材として、国語科教科書掲載の古典作品の本文が各学年に豊富に掲載されている。	○毛筆の紙面は、右ページで教材文字をよく見てから左ページの学習ステップでポイントを確認する構成になっている。(p. 44-45)	○冒頭の「目的に合わせて書こう」では、学校生活等で文字を書く場面を紹介し、目的意識や相手意識を持って学習に取り組めるよう工夫されている、(巻頭, p. 1) ○写真を多く取り入れ、生徒が関心を向けやすくなっている。	○「多様な表現による文字」では、松江城の碑文が紹介されており、郷土について考えることにつながっている。(p. 100-103) ○「学習を生かして書く」では、地域に関わる新聞・ポスター等の例が掲載され、地域に関わる学習活動で書写の学びを活用しやすいようになっている。(p. 90-93)	○「校庭の植物の観察をレポートにまとめる」「おすすめの本の帯やポップを作る」など、他の教科と関連した内容を取り上げている。	○漢字一覧表は部首ごとに行書の点画からも漢字を調べられるように工夫されている。(p. 121-133)	○試し書きで課題を見つけてから毛筆で練習し、その学びを生かして他の文字を書いた後にまとめ書きで変容を確認する学習を振り返ることができるよう学習過程が工夫されている。 ○「話し合い活動を通した学び方」では、まとめ書きや筆使いについて話し合う際の学習用語やポイントがまとめられ、対話的な学びにつながるようになっている。
I	○主な毛筆教材は1年3教材、2年3教材、3年2教材となっている。硬筆教材には、国語科教科書掲載の小説・古文・和歌が掲載されている。 ○「書写ブック」を取り外して使用することができる。 ○書写で身につけた力を日常生活に生かせるよう、国語をはじめ、他教科や学校生活で活用できる教材が掲載されている。(p. 84-85)	○「考えよう」「確かめよう」「生かそう」という流れが簡潔でわかりやすくまとめである。(p. 70-71) ○1教材1事項で構成し、学習のねらいを焦点化することで効率的に力をつけられるよう配慮されている。(p. 40-41)	○1人1台端末の活用の仕方やプレゼンテーションのスライドなど、ICT機器を使う際のポイントについて具体例を掲載し、ICT機器を活用した学びに配慮されている。(p. 34-36, 117) ○有名人の文字などを取り上げ、生徒が興味・関心を持っている。(p. 104-105)	○「全国文字マップ」で出雲大社の碑文が紹介されており、郷土について知ることにつながる。(p. 90-93) ○ユニバーサルデザインフォントなど活字の書体を取り上げ、目的や相手に応じた文字の使い分けについて考えられるようになっている。(p. 94-97)	○「季節のしおり」で古典や詩歌の有名作品に触れる機会が設けられている。(p. 62, p. 84, p. 106) ○「行書を活用しよう」などで実生活でどのように活かすことができるかがまとめられている。(p. 80-81) ○「防災フェスタを開こう」では、総合的な学習の時間とリンクしている。(p. 98-99)	○巻末には常用漢字だけでなく「人名用漢字表」が掲載されている。また、「部分別行書一覧」「書き初めマスターブック」には、名前の文字の配置が示されおり、作品づくりの際に役立てることができる。(p. 132-136, p. 138-139, 142-143)	○全教材に「目標」および「振り返ろう」(自己評価の観点)を設定し、知識・技能の定着や自己の変容を確認される構成となっている。 ○楷書と行書を比較して学習のポイントを理解し、半紙原寸大の手本を使って確かめる流れで、軽重をつけた紙面構成になっている。(p. 56-57) ○取り外して使える「書写ブック」に硬筆で書き込むことにより、毛筆の学びを硬筆に活かすことができるようになっている。

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科（地理的分野）

NO. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	○「スキルアップ」と、「資料から発見！」で、学習に必要な技能を身につけられるよう工夫されている。また、「スキルアップ」では解説の動画も見られるようになっている。 ○小学校の社会科や「スキルアップ」などで身に付けた技能を活用して活動するコーナーが設けられている。	○単元を貫く課題が示され、また、1時間ごとの課題の提示も問いの形になっており、授業の積み重ねにより段階的に課題解決されるよう構成されている。また、各単元の最後には学習内容をまとめ、振り返る活動が設定されている。 ○1時間ごとの学習内容を確認する「チェック」、要約や説明をする「トライ」の2段階で学習の振り返りや学習内容が確実に定着できるよう工夫されている。	○各編・章のはじめに導入の活動が設定されており、学習内容への興味・関心が高められるように工夫されている。 ○1時間ごとの学習課題を追求するきっかけとなる資料が大きく掲載されており、導入において興味・関心が高められる構成となっている。	○竹島の写真と地図(位置図と地形図)が掲載され、隠岐の島町に属していること、韓国の不法占拠に日本が抗議していること、その自然環境や豊かな漁業資源があることなど地理的な特色が記載されている。 ○海士町の遠隔授業や松江市のルビーを活用した地域おこし、浜田自動車道の開通による人の移動の変化を取り上げている。	○社会科の他分野や他教科とつなげて学びを深めることができるよう分野関連マークと一緒に二次元コードを読み取ると、インターネットを使って歴史や公民の関連のページの紙面を直接見ることができる。 ○これからの社会を考えるきっかけとして、「未来にアクセス」というコラムを設け、身近な視点で社会的な問題を考えることができるよう工夫されている。	○二次元コードを節の扉や「学習課題」の隣等に掲載することで、生徒が主体的に情報にアクセスすることができるよう工夫されている。 ○各編・章のはじめに小学校の社会で習ったことばが掲載されており、小学校での学習を振り返りながら学習が進められるよう工夫がなされている。	○単元のはじめに「探求課題」を設定し、単元末に探求課題に対する「まとめの活動」を設けることで、知識、主体的に取り組む態度、思考・判断・表現のそれぞれの力を身に付けることができる構成になっている。 ○見開きのページのほとんどにQRコードがつけられており、数種類のデジタル地球儀やクイズ、動画、資料など豊富なコンテンツにより、より興味・関心を高めたりより学びやすくしたりする工夫がなされている。
G	○「小学校の学習を振り返る」「地理にアプローチ」では、小学校の学習を振り返りながら中学校社会へのスムーズな連携できるような工夫がされている。 ○「地理の技」では、地図や地球儀、グラフの基本的な扱い方が身に付けられるよう工夫されている。	○1時間の学習ごとに「学習課題」「確認」「表現」を設け、本時の問いに対する振り返りや学習した内容を活用した表現活動ができるような構成となっている。 ○単元末に学習したことを活用してまとめる場を設け、自分の言葉でこれまでの学習を振り返り、学びが定着するよう工夫されている。	○「世界の諸地域」「日本の諸地域」では各節のはじめの学習を見通す導入のページに写真資料等が大きく載せられており、興味・関心を喚起できるような工夫されている。 ○導入資料や追究のヒントになる資料を解説した「LOOK!」や学習内容に関するコラム「地理の窓」を設け、興味・関心を高めるよう工夫されている。	○竹島の写真と地図（南東を上にした位置図）が掲載され、島根県への編入の経緯と韓国が不法に占拠するまでの経緯、日本が抗議し、話合いを提案しても韓国は受け入れていないことが記載されている。 ○石見神楽、海士町のロゴマークやかんこ舟、松江市の雨温図、三江線の代替バス、石見空港の状況が取り上げられている。	○歴史的分野、公民的分野に関連のある内容については、関連マークとともに語句が掲載されており、3分野の学習を結びつけて学習できる工夫がされている。 ○特設ページ「クロスロード」が6つのテーマで設けられており、持続可能な社会への意識が高まるよう工夫されている。	○各編の扉の二次元コード「学びリンク」では、学習内容に関連するサイトが紹介され、学習を広げ深めることができるよう工夫されている。 ○世界と日本の学習の間の折り込み資料は、8ページにわたる大きく広げることができる資料を掲載し、世界と日本両方の学習に役立てられるつくりになっている。	○各編の冒頭に、その編や章においてどのような学習を行うのかが整理されており、生徒が長期的に何を学んでいくのか見通しをもてるよう工夫されている。 ○様々な箇所にSDGsで示されている17項目のアイコンが掲載されており、学習内容がSDGsとどのような関連があるのか、把握しやすくなるよう工夫されている。

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科（地理的分野）

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
J	○「技能をみがく」のコラムが設けられており、地理の学習における基礎的な技能が身に付けられるようになっている。 ○単元を貫く「章・節の問い」や学習課題の提示が統一されたレイアウトで配置され、単元全体の見通しがもてるよう工夫されている。	○章や節といった単元ごとに、単元を貫く問いが設定されており、単元末には単元の学習内容を地図で整理したり、学習内容を振り返りながら単元の問いに取り組む構成となっている。 ○1時間ごとの学びに「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」が設けられ、学習内容を見通したり、学習内容を確認したり、自分の言葉で説明する活動が設定され、単元の問いを考えるために必要な知識を習得できる構成になっている。	○「世界の諸地域」や「日本の諸地域」では、写真から単元の学習内容に対する問題意識や興味・関心を高める単元の導入となるページが設けられ、単元を見通すことができるよう工夫されている。 ○見開きの学習内容につながる具体的事例が導入資料として提示されており、興味・関心を高める工夫がなされている。	○竹島の写真と地図（位置図）が掲載され、隠岐の島町の所属と島根県への編入、韓国の不法占拠等が記載されている。また、昔の竹島の漁業や竹島の日についての記載もある。 ○「人々を呼び寄せる地域の取り組み」で、出雲大社や石見神楽の写真、本県を訪れる観光客数の推移が掲載している。	○小学校や他分野・他教科との関連があるページの下には、分野・教科とその内容が示されており、教科、分野横断的な学習に対する配慮がある。 ○「未来に向けて」の特設ページやコラムが設けられており、未来の社会をつくる6つのテーマの取り組みが紹介されている。	○巻頭で「単元を通した学び」や「地理的な見方・考え方」「考えを整理する方法」等、学習のポイントについて整理されている。 ○巻頭に「地図帳を活用した学び方」のページや本文ページに地図帳を活用する学習活動が設けられており、地図帳と学習内容のつながりが分かりやすくなるよう工夫されている。	○単元ごとに設定されている「問い」を意識しながら授業を展開できるよう工夫しており、単元末には、学びを深めるためにまとめたり、対話したりするなどの学習課題が設定されている。 ○学習の理解を助ける動画サイトや図解アニメーション、各種統計資料につながる二次元コードが多く掲載され、学習を深めることができるよう工夫されている。
O	○「スキルup」で、地理の学習に必要な技能を6種類に整理し、系統立てて習得できるよう工夫されている。 ○具体的な作業を通して学習内容を深める「トライ」や、深い学びを実現するための「議論してみよう」などのコーナーが設けられている。	○各単元でまず単元の問いを立て、単元の最後にまとめと振り返りで単元の問いについて自分の考えをまとめる構成となっている。 ○1時間の内容ごとに「学習課題」で何を学んでいくかが示されており、学習の最後に学習課題に対応した「確認」や「表現」で学習を確かめるための問いが示してある。	○各単元のはじめにその単元で学習する内容の写真やクイズが載せられており、学習への興味・関心や見通しをもてるような工夫がなされている。 ○本文ページでは導入になる資料とそれに関係する問いかけが設けられており、その時間への興味・関心を高めたり見通しをもったりできるような工夫がなされている。	○竹島の地図（位置図）と写真が掲載され、島根県への編入の経緯と韓国の不法占拠について、日本が平和的な解決をめざしていることが記載されている。また、「領土・主権展示館」や「竹島資料室」の写真が掲載されている。 ○松江市の雨温図、海士町の「島留学」について記載されている。	○本文下部に見開きの学習内容についての小学校での学習や歴史的分野・公民的分野とのつながりが示してある。 ○「持続可能な地域をめざして」では、文化や防災、自然環境、地域等身近なテーマを深く学習できるよう工夫されている。	○巻頭ページで「地理的な見方・考え方」整理して示され、また1時間の内容ごとに学習課題の解決に向けて手がかりになる「見方・考え方」の例が示されており、「見方・考え方」を働かせて考えながら学習が進められる工夫がなされている。 ○「タブレットマーク」が表示してあるページでは、二次元コードで関連するサイトや動画等にアクセスして学習を広げ、深めることができるよう工夫されている。	○内容ごとに学習課題に対して働かせる地理的な見方・考え方を示し、単元のまとめでは様々な思考ツールで思考力、判断力、表現力等を身に付けることができるよう工夫されている。 ○単元のはじめに、自らの気づきから単元の問いを立て、学習の見通しをもつ活動が設定されており、活動が行いやすいように資料の選択や配置も工夫されている。

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科（歴史的分野）

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	○見開き2ページで1時間の授業が構想され、写真や図表などの資料がバランスよく配置されている。また、本文は行間が広く、ふりがなもたくさんふってあり読みやすいよう配慮されている。 ○「比較」「関連」のコーナーや「スキルアップ」では、情報を読み取ったりまとめたりする技能が身に付けられるよう構成されている。(p. 36, 131)	○各章の導入では、「小学校の社会で習ったことば」やその時代の想像図が記載され、キャラクター年表で時代の流れをとらえることができるよう工夫されている。(p. 22-23, 64-65) ○「みんなでチャレンジ」のコーナーでは話し合いのテーマが例示されており、対話的な学び、協働的な学びを意識した構成となっている。(p. 69, 144, 152) ○各章のまとめ活動で知識・思考・判断・表現を活用した構成となっている。	○「地域の歴史を調べよう」では、地域の歴史を調べる学習の例を手順とともに具体的に示し、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 40-41, 138-139) ○コラム「もっと知りたい」では、琉球文化やアイヌ文化について詳しく説明され、興味・関心をもって文化の多様性を理解できるよう工夫されている。(p. 86-87, 120-121)	○コラム「もっと知りたい!」では、「島根県と神話」を取りあげ、出雲神話や佐陀神能について詳しく紹介されている。(p. 58-59) ○「領土をめぐる問題の背景」では、竹島について写真や当時の地図を用いて、島根県への編入の経緯が記載されている。また、韓国による不法占拠や我が国の対応についても記載されている。(p. 176, 253)	○小学校での学習や、地理的分野、公民的分野とのつながりが強い内容について、関連マークを付し、学習内容を深められるよう工夫されている。(p. 98, 177, 209) ○コラム「もっと知りたい!」では、人権・平和、環境・エネルギーなどのマークが示され、社会の諸課題との関連が意識できるよう工夫されている。(p. 218, 266)	○二次元コードが見開き2ページの同じ個所に配置されており、各時代ごとにまとめられたサイトにアクセスできるようになっている。○Xチャート、フィッシュボーン図など多様な思考ツールで、生徒の思考が深まるよう支援されている。(p. 96, 142)	○章末の「確かめよう」「ふり返ろう」「深めよう」では、くらげチャートやXチャートを使ってまとめ、探究することで、時代を大観できるよう工夫されている。(p. 94-96, 140-142) ○地理的分野や公民的分野、他教科等との連携を意識させる内容となっており、人権・平和、環境・エネルギーといった現代社会の課題について考える内容になっている。
G	○本文の行間が広く読みやすい。また、写真や図表など資料の間隔も余裕があり、見やすい構図になるよう工夫されている。 ○各章末の見開き2ページでは、日本の動きと世界の動きを年表で比較することができるようになっている。また、それぞれの時代の特徴を生徒自身が説明するよう工夫されている。(p. 56-57, 92-93, 140-141)	○各節で「節の問い」を記載し、「節をとらえる」では、生徒がキーワードを使って時代をとらえることができるよう工夫されている。(p. 38, 43) ○各章の終わりに、「学習のまとめと表現」があり、「HOP!」「STEP!」「JUMP!」の3段階で、生徒自身が各章のまとめをすることができるよう工夫されている。(p. 56-58)	○「歴史ゲームで遊ぼう」では、歴史人物クロードやカード作りなどを通して、興味・関心をもって小学校での学習を振り返ることができるよう工夫されている。(p. 4-7) ○小単元のタイトルが単元を現した印象的なものになっている。	○コラム「歴史を探ろう」の「神話にみる古代の人々の信仰」では出雲大社について、「『銀の島』日本では石見銀山について、詳しく記載されている。(p. 52, 106-107) ○コラム「歴史を探ろう」の「隣国と向き合うために」で、竹島について編入の経緯や韓国の不法占拠、政府の対応について記載されている。(p. 266)	○「歴史を探ろう」という特集ページでは、SDGsの視点を用いて、当時の人々の暮らしと現在の暮らしとのつながりを考えられるよう構成されている。(p. 138-139) ○「身近な地域の歴史を調べよう」では、情報の集め方やまとめ方、発表の仕方などの活動について詳しく説明されている。(p. 12-18)	○コラム「歴史の技」では、二次元コードから、資料や動画を閲覧できるようになっている。(p. 25, 101, 219) ○巻末の「世界地図の歴史」では、世界の形が歴史上どのように考えられてきたのかについて、興味・関心を高める資料が掲載されている。	○「歴史の窓」や「歴史を探ろう」など学習内容を深めるページを取り入れ、多面的・多角的な視点で歴史的事象をとらえられるよう工夫されている。(p. 65, 116-117) ○章末の「学習のまとめと表現」では、段階的に時代の特徴を振り返り、時代を大観し自分の歴史観を形成できるよう工夫されている。(p. 202-204, 248-250)

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科（歴史的分野）

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
J	○見開き2ページにイラストや図表等が豊富に配置されている。また、コラム「未来に向けて」が数多くに掲載されており、現在との関連を考えやすくなるよう工夫されている。(p. 78-80) ○特集ページ「アクティブ歴史」やコラム「歴史を探ろう」では、学習内容を深めたり、違う視点から捉えたりできるよう工夫されている。(p. 156-157, 246-247)	○「各章の問い」や「各節の問い」が、導入で示されており、見通しをもって段階的に課題解決ができるよう工夫されている。(p. 63, 227) ○「タイムトラベル」という時代の想像図が章の導入に掲載され、時代のイメージを膨らませやすくとともに、前の時代との比較によって、自分の考えをまとめやすくしている。(p. 114-115, 134-135)	○「歴史を探ろう」の「昆布ロードと北前船」では、交易が各地域の食文化に影響を与えたことが特集されている。また、コラム「歴史プラス」で、生徒の興味・関心を高める内容になっている。(p. 142-143) ○「世界とのつながりを考えよう」では、世界地図上にイラスト等で各地域の歴史的事象や地域間のつながりを示し、世界の動きに興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 44-45, 110-111)	○荒神谷遺跡の銅剣を取り上げ、コラム「未来に向けて」で石見神楽を取り上げている。また、コラム「地域史」で石見銀山について記載されている。(p. 29, 49, 113) ○竹島について、本文に島根県への編入が記載されている。また、コラム「日本の領土画定と近隣諸国で、編入の経緯や韓国の不法占拠などについて記載されている。(p. 195, 287)	○コラム「未来に向けて」では、防災や人権・多文化共生の視点で、現在でも参考となる先人たちの取組が紹介されている。(p. 97, 244-245) ○巻末の「これからの社会を構想しよう」では、歴史とSDGsのつながりを考え、これからの社会について、テーマに沿ってグループで考えられるよう構成されている。(p. 307-309)	○二次元コードからデジタルコンテンツごとに関連サイトにアクセスできるようになっている。(p. 34, 76) ○ページ右側の年表で、学習する時代が確認できるとともに、巻頭や巻末の年表と対応させ、時代の推移や世界の動きを意識できるよう工夫されている。 ○「タイムトラベル」は、細かなイラスト描写がされており、生徒が意欲をもってイラストを考察できる資料となっている。	○章末の「学習を振り返ろう」では、年表や図表を使って、課題に対する自分の考えをまとめられるよう工夫されている。(p. 60-62, 224-226) ○「タイムトラベル」は、生徒の興味・関心を高めるとともに、本文の説明内容との関連をつかみ、時代が大観できるような想像図となっている。(p. 64-65, 134-135)
M	○見開き2ページの写真・図表などの資料が豊富で、本文では、歴史的事象が丁寧に説明されている。また、用語解説が側注に記載されている。 ○日本史と世界史の年表が写真や絵画資料などの資料とともに並記され、世界地図も各章に掲載されるなど、世界の動きと関連付けて学習できるよう工夫されている。(p. 102-103, 154-155)	○見開き2ページに1～2個の学習課題を示して見通しをもたせ、終末の「ステップアップ」では、さらに学習内容を深められるように新たな課題が示されている。(p. 116-117) ○「歴史を考えよう」や「歴史へのアプローチ」で、絵巻物や江戸時代の名所の絵図などから資料を読み取り、学習内容を深めるよう工夫されている。(p. 76-77, 144-145)	○「地域からのアプローチ」では、特定の地域を取り上げ、その時代と関連のある史跡や特産品について、地域の特徴をふまえて紹介されている。(p. 58-59) ○世界地図を用いて世界の様子や遺跡などがイラストで示されている。世界の変化について興味・関心をもって読み取れるよう工夫されている。(p. 110-111)	○「ヨーロッパ人との出会い」で、石見銀山を示した地図が掲載され、当時の海外における銀の需要と石見銀山の重要性について説明されている。(p. 112-113) ○「歴史へのアプローチ」の「日本の領土の変遷」では、竹島の島根県への編入と韓国による不法占拠の経緯について記載されている。(p. 268-269)	○「歴史を考えよう」では、主権者の育成という観点から、普通選挙や日本国憲法について考えられるよう構成されている。(p. 228-229, 260-261) ○「歴史へのアプローチ」では、琉球の歴史と文化、アイヌの歴史と文化が詳しく紹介され、日本における文化の多様性について考えられるよう構成されている。(p. 88-91)	○二次元コードから様々なサイトにアクセスでき、デジタルコンテンツを見ることができる。 ○「身近な地域を調べよう」では、調査のスキルが項目ごとにまとめてあり、他の教科等の学習にも活用できるよう説明されている。(p. 8-13) ○文字数が多く、行間が詰まっているため、中学生の教科書として難しい印象をうける。	○「地域からのアプローチ」で、地方史からの視点を大切にしており、日本史と世界史のつながりだけでなく、自分自身と歴史の距離を近付けるよう工夫されている。(p. 58-59, 250-251) ○章末のまとめでは、地図や図表を活用し、視点を明確にしておき、直接記入できるようになっており、歴史を大観できるよう工夫されている。(p. 60-61, 100-101)

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科（歴史的分野）

N O . 3

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
○	○時代ごとの特徴を読み取るために、資料が多数掲載されている。特に文化財に関する資料が多く掲載され、人々の営みから時代を大観する学習に役立つ工夫されている。(p. 78-79, 118-119) ○コラム「先人に学ぶ」では、先人の取組に学ぶことで、これからの生き方について考えることができるよう工夫されている。(p. 97, 209)	○各編の「学習のはじめに」で、前時代との比較ができる資料を大きく掲載し、歴史的な見方・考え方を働かせて時代のイメージがつかみやすくなるよう工夫されている。(p. 64-65, 154-155) ○「チャレンジ歴史」では、対話的な学びや協働的な学びを通して考えを深める活動が多く取り入れられている。(p. 74-75, 252-253) ○各単元に学習課題に関連した見方・考え方が提示してあり、課題を考えるヒントとなる。	○各編の導入の「地図で見る世界の動き」では、世界地図や写真とともに、国の位置や地域とのつながりが示され、興味・関心を高められるよう構成されている。(p. 157) ○「チャレンジ歴史」では、考古学の視点を用いて、歴史的な事象について考えるように工夫されており、興味・関心がもてるようになっている。(p. 38-39)	○コラム「地域に学ぶ」では、石見銀山について記載されており、ヨーロッパでもその名が知られ、戦国大名が争いを繰り返したことが記載されている。(p. 117) ○「歴史を掘り下げる」の「冷戦終結後の近隣諸国との関係」では、竹島問題の経緯と現在の状況について記載されている。(p. 286)	○「『歴史との対話』を未来に活かす」では、学習を振り返り未来に向けて考える活動が設けられ、災害、政治参加、世界平和などについて多面的・多角的に学習できるようになっている。(p. 292-299) ○「地域調べ」では、公害克服の歴史について調べるように設定されており、環境問題について考えられるよう構成されている。(p. 288-289)	○見開き2ページごとに掲載された二次元コードからデジタルコンテンツにアクセスできるようになっている。 ○各ページ右側の年表で学習する時代を確認でき、巻末の年表とも対応しているため、時代の推移や世界の動きを意識できるよう工夫されている。	○文化財資料が多数掲載され、資料を比較したり背景を考えたりする活動を通して、多面的・多角的な視点で歴史的な事象がとらえられるよう工夫されている。(p. 96-99, 138-139) ○各編の終わりに「まとめとふり振り返り」のページを設け、いづどこで何があったかを振り返り、時代を大観し整理できるよう工夫されている。(p. 102-103, 212-213)
Q	○多くの歴史的人物が取り上げられている。その人物が写真や肖像画とともに紹介されており、人物を通して歴史的な事象について学習できるよう工夫されている。(p. 162-163, 222) ○本文に多くの注釈をつけ、見開き2ページの本文の周りに、注釈に係る写真や絵画資料とその解説が掲載され、生徒の理解が深まりやすくなるよう工夫されている。	○各章の初めに、前の章のまとめとこれからの章の予告が示され、「登場人物紹介コーナー」で、その時代の代表的な人物を取り上げている。(p. 68-69, 104-105) ○各章のまとめとして「調べ学習のページ」「復習問題のページ」「時代の特徴を考えるページ」「対話とまとめ図のページ」を使い、時代を大観しやすいう工夫されている。(p. 64-68, 206-210)	○「外の目から見た日本」では、各時代の日本を世界的な視点からとらえ直すことで、学びを深められるよう配慮されている。(p. 116, 143) ○「神話が語る国の始まり」について詳しく記載し、神話・伝承から歴史をとらえる視点についても取り上げられており、興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 38-39)	○「もっと知りたい」の「国譲り神話と古代人」では、出雲神話と出雲大社が取り上げられ、関連して荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡についても記載されている。(p. 40-41) ○竹島の島根県への編入の経緯と韓国による不法占拠の経緯について詳しく記載され、側注で「李承晩ラインの悲劇」についても記載されている。(p. 173, 263)	○「もっと知りたい」の「エコロジー都市 江戸」では、江戸の水道事情やリサイクルによるエコロジーな生活について記載され、SDGsとの関連に配慮されている。(p. 142) ○「調べ学習のページ」では、修学旅行や名字の由来などのテーマを設定し、調べる視点や調査方法などを具体的に学べるよう工夫されている。(p. 64-65, 100-101)	○序章「歴史のとらえ方」の「人物を通して時代をとらえる」では、小学校の社会の学習とのつながりを意識した記載がされている。(p. 16-18) ○歴史学習の終わりに、「日本の歴史の特色は何か」を、スピーチ原稿としてまとめる課題を設定している。(p. 288) ○教科書の太字に思想の偏りを感じる。	○学習の初めに「歴史を学ぶとは」について記載し、我が国の歴史と伝統を意識できるよう工夫されている。(p. 2) ○人物について「もっと知りたい」や「人物クローズアップ」で取り上げ、その時代の背景や人々の思いを紹介し、様々な視点から歴史を考えられるよう工夫されている。(p. 62-63, 197, 280-282)

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科（歴史的分野）

N O . 4

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
R	○見開き2ページに豊富な絵画や地図などの資料を配置し、行間にも余裕がたせてあり、読みやすい構成となっている。 ○「歴史ズームイン」の「日本人の宗教観」や「神話に見る日本誕生の物語」では、日本の成り立ちについて詳しく記載されており、神話や伝承から古代史を読み解くことができるよう工夫されている。(p. 44, 54-55)	○各章の導入「○○の世界へようこそ!」では、絵画資料を掲載し、その時代の特徴や他の時代との違いをとらえることができるよう工夫されている。(p. 26-27, 66-67) ○章末で、年表や絵画資料を使って時代を大観し、この時代の最も重要だと思う人物について説明することで、歴史的事象に対する理解を深めるよう工夫されている。(p. 94-95, 144-145)	○各章の導入では、鳥の目でイラストを、虫の目で絵画資料を見て歴史を大観できるよう工夫されている。特にイラストでは、人物に視点を当てた構成になっている。(p. 4, 24-27, 64-67) ○「歴史ビュー」では、歴史に関わるできごとの意味や背景などについて、多面的・多角的に考察できるよう工夫されている。(p. 133, 213)	○「歴史ズームイン」の「神話に見る日本誕生の物語」の中で、出雲大社や神代神楽が紹介されている。(p. 54-55) ○竹島について「明治初期の外交と国境の画定」の本文に記載されており、「歴史ズームイン」の「日本の領土をめぐる問題」の中で編入の経緯や韓国の不法占拠について記載されている。(p. 176-177, 256-257)	○「歴史ズームイン」の「震災の日本史」や「感染症の歴史」では、歴史の記憶と教訓から、未来をどう生きていくのかを考えることができるよう工夫されている。(p. 274-275, 276-277) ○「歴史ズームイン」の「より速く、安全に」では、新幹線の開発の歴史を取りあげ、効率化と安全性について考えられるよう構成されている。(p. 264-265)	○「歴史モノサシ」を記載し、年代や時代区分の理解を深め、学習する時代を確認できるよう工夫されている。(p. 8-11) ○「地域の歴史を調べてみよう」のページで、調べ学習の方法がわかりやすく説明されている。(p. 150-153)	○「人物クローズアップ」で多くの人物が取りあげられ、その時代の背景や人々の思いについて知り、様々な視点から歴史をとらえることができるよう工夫されている。(p. 117, 217) ○巻頭の「日本の美の形」や、「歴史ズームイン」の「浮世絵の影響」で、日本の芸術のすばらしさについて理解が深まるよう工夫されている。(巻頭1-p. 1, 140-141)
V	○「国史を学ぶにあたって」で、小学校での既習事項、年代や時代の表し方、歴史的な見方・考え方について記載し、歴史学習にスムーズに入れるよう工夫されている。(p. 10-16) ○各章末に日本と世界のできごとを並記した年表を掲載し、日本と世界を比較して考察することができる構成になっている。(p. 116-117)	○授業の最初に「課題」を示し、終末の「考えよう」で学びを深められるよう構成されている。また、「考えよう」にヒントも掲載されている。 ○各章のまとめ学習として、「新聞にまとめてみよう(近世)」や「ディベートをしてみよう(近代)」のように、様々な方法で自分の考えを表現できるよう工夫されている。(p. 263-264, 404-406)	○最初に「この教科書の課題」で、歴史のとらえ方と歴史を学ぶ意味について記載し、歴史を自分事としてとらえることができるよう工夫されている。(p. 4-5) ○コラムを1～2ページに渡って大きく詳しく記載し、本文の内容を深めるとともに、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 227, 355)	○「鉄砲の伝来と南蛮貿易」で、当時の日本の主な輸出品が銀であり、そのころ開発された石見銀山が当時の世界地図に載るほど有名だったことが記載されている。(p. 190) ○竹島の領有権の確立と閣議決定による島根県への編入、戦後の韓国による不法占拠について詳しく記載されている。(p. 303, 423)	○「文化遺産を調べに行こう」では、調べ学習の方法について記載されており、主体的・協働的な学びにつながるよう工夫されている。(p. 175) ○巻末に「日本美術図鑑」を掲載し、各時代を代表する美術品が紹介されている。また、それらが実際に見られる美術館・博物館等も紹介されている。(p. 489-536)	○世界各国王朝略年表と歴代天皇の皇位継承図を掲載し、日本の歴史に対する関心が高まるよう工夫されている。(p. 6-9) ○巻末に、様々な日本と世界の地図等が掲載され、発展的学習につながるよう工夫されている。(p. 465-488)	○天皇と政権担当者の関係について詳しく記載し、政権担当者の視点だけではなく多面的・多角的な視点から歴史をとらえられるよう工夫されている。(p. 153-154, 190-191) ○「真岡郵便電信局事件」や「三船殉難事件」などの事件を掲載し、近現代史を見つめ直すきっかけとなるよう工夫されている。(p. 397-399, 400-401) ○教科書のページ数も多く、資料も豊富だが、内容が多すぎる。

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科(公民的分野)

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	○図表や写真等の資料が多く、資料を活用した学習が意識されている。また、どのような視点で考えるかをマークで示し、主体的・対話的で深い学びにつなげることができるよう工夫されている。(p. 10-11) ○「もっと知りたい！」や「未来にアクセス」のコラムでは、生徒の学びを広げたり、深めたりする資料や事例が数多く示されている。(p. 9, 115)	○各章のはじめに導入の活動、探究課題を設定し、章末に「確かめよう」「ふり返ろう」「深めよう」のステップで知識、主体的に学習に取り組む態度、思考・判断・表現を評価する構成になっている。(p. 6-7, 32, 35) ○毎時間の学習では、写真・図版と学習課題が示され、「チェック」「トライ」の2段階で学習内容の定着が図られるよう工夫されている。(p. 8, 9) ○1時間の学習の流れを見える化 (p152, 153)	○各章のはじめにある「導入の活動」では、市長の選出やコンビニの経営等をシミュレーションを通して学ぶことで、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 78, 79, 130-131) ○ICTの日常的な活用を促すために、「デジタルコンテンツを活用しよう」で説明が示され、見開き2ページの小單元ごとに二次元コードがあり、学習のまとめ等ができるよう工夫されている。(p. 3, 巻末3)	○竹島問題について、特設ページを設け、韓国による不法占拠の動き、国際司法裁判所への提訴の動きを、地図や新聞記事を用いて掲載している。(p. 186) ○成年年齢が18歳に引き下げられたことを受け、18歳と20歳でできることの違いや、選挙や契約について取りあげ、主権者意識や消費者意識を高めるよう工夫されている。(p. 60, 90, 138)	○終章では、持続可能な社会のために自分にできることをレポートにまとめる構成となっている。テーマ例として地域課題の解決を取りあげ、社会参画につながる内容となっている。(p. 216, 221) ○他分野・他教科との関連を図った学習のマークが示されており、さらにデジタルコンテンツでその内容を確認できるようになっている。(p. 14)	○カラーユニバーサルデザインに対応し、グラフや地図は、誰にでも見分けられるような色の組み合わせを採用する等、多様性に配慮されている。 ○Dマークを表示することで、思考を助けるためのデジタルコンテンツに接続しやすい工夫されている。(p. 92, 巻末3) ○イラストが独特で親しみにくい。	○思考を深めるために資料等を充実させたり、本時の学習項目と併せてサブタイトルを記載したりする等、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 20) ○二次元コードを多用し、自分の興味や関心があるデジタルコンテンツに容易に接続できるようになっており、紙とデジタルの両方から学びにアクセスできるよう工夫されている。(P. 20) ○QRコンテンツの充実が、生徒の個別最適な学びや協働的な学びを支える。
G	○図表、写真等の資料が多く、内容の難しいものには解説も併記されている。また、本文や用語の解説が側注でなされ、理解を支援するよう工夫されている。(p. 62-63) ○「公民にアプローチ」では情報収集や思考ツールを使った情報整理の方法が示され、「公民の技」では技能や表現力を高める活動が例示されている。(p. 8-11, 32)	○各章の「学習のはじめに」で、章のおおまかな学習内容と、現代社会の見方・考え方を示し、章末の「HOP!」「STEP!」「JUMP!」の3段階の課題により内容の整理や学習テーマについての考察を深めるよう構成されている。(p. 14-15, 36-38) ○見開き2ページが、導入、資料、「学習課題」、本文、「確認」、「表現」の一連の流れで構成されており、見通しをもって学習をすすめることができるよう工夫されている。(p. 16-17)	○各章の「学習のはじめに」では、中学生が学ぶ姿を漫画で取りあげたり、給食センターに関する話題等、生徒の身近な題材を使ったりすることで、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 40, 130) ○1人1台端末の日常的な活用を促すために、「まなびリンク」の二次元コードが各章のはじめやまとめの活動に用いられている。(p. 5, 13)	○竹島問題について、本文に「韓国政府が領土問題の存在を否定」と記載され、竹島の写真とともに側注では、「李承晩ラインの設定」等の竹島問題の経緯について解説がされている。(p. 199) ○資料中に海士町の島留学や大田市の中村ブレイスの取組、島根県の鯨食文化の記載があり、地域を通して社会を考えさせる内容となっている。(p. 122, 168, 228) ○竹島については、写真1枚と150文字程度の解説と少量。	○各章のまとめにはSDGsとの関連を問うページが設定されており、持続可能な社会の実現に向けて、考えを深めていくよう工夫されている。(p. 38) ○見開きの左下部分に、小学校や他分野、他教科と関連する項目を記載することで、各分野、他教科との連携や振り返りを行うことができるよう工夫されている。(p. 22)	○各章の「ウォーミングアップ! 公民」や章末の「学習のまとめと表現」では、自分の考えを記述する所が多くあり、表現力を高めることができるよう配慮されている。(p. 15, 36, 38) ○ノートの取り方について取りあげ、チェックポイントを意識することで、振り返りや、家庭学習につなぎやすいよう工夫されている。(p. 7)	○SDGsについて、「公民の学習を始めるにあたって」や各章のまとめで大きく取り上げており、持続可能な社会の形成にむけて、主体的に考えを深めるよう工夫されている。(p. 1) ○導入では、公民で学ぶ主要内容と学習の見通しや学び方、ノートづくり等、生徒が主体的に学習に取り組めるよう丁寧に記載されている。(p. II, 6-7) ○QRコンテンツはあまり充実していない。

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科(公民的分野)

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
J	○図表、写真等の資料が大きく示され、対話や資料活用のポイントが示されている。また、本文の補足や解説を側注に示し、社会的事象を多面的にとらえられるよう配慮されている。(p.51,104) ○「対話」という学習活動が小単元のはじめに設けてあり、ペアやグループでの対話を通じて、本時の学習内容にスムーズにつなぐことができるよう工夫されている。(p.4) ○「～とは」の解説では、中学生の目線で分かりやすい表現。	○章のはじめに「章の問い」を提示し、「学習を振り返ろう」では、2つのステップで「章の問い」を考える構成となっており、思考ツールの活用や対話を通して主体的・対話的で深い学びの実現に向けて配慮されている。(p.2-3,24-25) ○見開きの右下には、導入で取り組んだ活動のどの部分と関係しているのかが記されており、本文への理解が深まるよう工夫されている(p.37)	○各章のはじめのイラストは、学習内容と関連する社会のさまざまな場面をとらえる内容となっており、興味・関心を高め、資料に集中できるよう工夫されている。(p.30-31,74-75) ○各章・各節のはじめに二次元コードの活用について説明があり、学習内容に関連するデジタルコンテンツにもアクセスできる等、個別最適な学びや1人1台端末の日常的な活用にもつながるよう工夫されている。(p.2,4) ○「自分ごと」として社会に参画する意識を促す本文内容。	○竹島問題について、「日本固有の領土」「不法に占拠」「国際司法裁判所に委ねよう」と韓国に複数回提案」と本文に記載され、側注では、地図で韓国、島根県と竹島の位置関係を示している。(p.187) ○「選挙制度とその課題」では島根、鳥取の参議院選挙の合区についてグラフ等で示しており、今後の選挙制度のあり方や課題について考えられるようにしている。(p.82)	○「アクティブ公民」では実社会に関連した課題について、多面的・多角的な思考活動や、話し合いによる合意形成等を伴う活動を取り入れ、学習内容を深化できるよう工夫されている。(p.22,166) ○第5部「課題探究学習」では、各章末にある「探究学習への準備」を活用したレポート作成が提起されており、各章で働かせた現代社会の見方・考え方を生かした考察の例が複数掲載されている。(p.215-223)	○「18歳への準備」として、「ライフプランから金融を考えよう」では、債権や投資信託の説明があり、金融商品の活用についてもふれている。(p.154) ○小学校社会や他分野との関連だけでなく、地図帳活用のマークを示し、地図帳を活用することで学びを深めることができるよう工夫されている。(p.13) ○SDGsへの意識を高める取り組みに注目。	○豊富なデジタルコンテンツや、地図帳活用等、教科書本文以外の情報を活用し、学びを深めることができるよう工夫されている。(裏表紙) ○「課題探究学習」が第5部として独立しており、既習事項を生かした学習内容が示されている。また、「高等学校への準備」として、「公共」とのつながりを意識できるよう工夫されている。(p.223) ○単元が、学習者は主体的・対話的で深い学びに、指導者は指導と評価の一体化につながるよう構成されている。(単元を貫く問いの設定により見通しが持てる)
O	○図表、写真等の資料が多く、本文中のことがらには関連する資料番号や教科書のページが記載されている。また、ページ下に「各節の問い」が示され、授業を進めるうえで資料や問いを意識するよう工夫されている。(p.10) ○章末の課題や「アクティビティ」では思考ツールを用いた情報整理や思考の流れが示され、場面に応じた思考活動ができるよう工夫されている。(p.81,85,127,巻末2)	○「章のまとめをしよう」では、新聞記事やニュースを題材とした「ニュースを見方・考え方から見てみよう」の項目があり、現実の課題に現代社会の見方・考え方を生かすよう工夫されている。(p.22) ○各単元に「学習課題」と「見方・考え方」が示しており、授業で着目するポイントや、何について考えるのかについて見通しをもつよう工夫されている。(p.8)	○各編章のはじめに身近な例を描いた漫画を用いて学習内容との関係について気づきを促し、意見の交流を通して学習への興味・関心が高まるよう工夫されている。(p.67) ○「15歳は『子ども』？それとも『大人』？」や、「少年法における18歳と19歳のあつかい」で、生徒の年齢に近い事例を扱い、主体的な学びができるような題材を示している。(p.72,73,109)	○竹島問題について、「日本固有の領土」「不法に占拠」「国際司法裁判所で解決することを提案」と本文に記載がある。特設ページでは、竹島をめぐる歴史的背景が記載され、「竹島の日」式典の写真が掲載されている。(p.194-196) ○「チャレンジ公民」では章の学習内容に関わる課題を考察・構想し、町づくりや社会保障等について主体的に考えさせる内容になっている。(p.34)	○巻頭で地理・歴史とのつながりを写真を用いて示し、巻末で高校の公民科とのつながりについて、公民で学習した内容を具体的な写真や事例を用いて示している。(巻頭3,巻末1,3) ○中学生の活動や中学生に関連ある事例を示し、生徒が公民の学習と自分とのつながりを実感できるような資料構成になっている。(巻頭1,2,14,54)	○「まちのバリアフリーを探そう」では実際に点字が打刻されており、学習内容への理解を深めることができるよう工夫されている。(p.56,57) ○巻末には、「用語解説」とともに、生徒が混同しやすい語句の違いを解説する「類似用語集」を掲載し、理解しやすい工夫されている。(p.258-261)	○二次元コードでアクセスしたポートフォリオによって、学びの記録や思考の変容を把握できるよう工夫されている。(p.7) ○終章の「私たちの課題」では、各章で学習した内容をもとに「テーマの設定」「資料の収集と読み取り」「考察と構想」「まとめと評価」を行うことで、社会科で学習した内容のつながりを意識することができるよう工夫されている。(p.222) ○導入にマンガが多用されていて分かりやすい。

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科(公民的分野)

N O . 3

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
Q	○図表、写真等の資料が大きく、見やすく、一目で資料を確認できたり、裏表紙に我が国の領域の地図が載っていたりし、資料や地図を調べやすいよう配慮されている。(p. 2, 裏表紙) ○「アクティブに深めよう」では意見の整理方法や新聞の見方等が示されており、身に付けた技能を高められるようになっている。(p. 40-41, 94 95)	○各小単元で内容に関する資料と学習課題が示されるとともに、「ここがポイント！」として本時のまとめを示し内容の定着を促すよう工夫されている。(p. 2-3) ○章の終わりの「学習のまとめ」で最重要語句を確認し、「学習の発展」では課題を複数設定し約400字でまとめることで、学習内容の定着を図ることができるよう工夫されている。(p. 42)	○「もっと知りたい」では、既習事項について、過去の歴史や文化等を多様な視点から解説することで、学びを深めるよう工夫されている。(p. 14 21) ○教科書に登場するキャラクターのつぶやきや、「やってみよう」の課題により、授業において個人やグループで考えたり話し合ったりするためのポイントが示されている。(p. 7)	○竹島問題について、本文および特集ページにて、竹島問題の概要や、韓国政府の見解、それに対する日本の指摘と反論も含め記載されている。(p. 170-171) ○統合災害情報システム「DiMAPS」に関する資料や「地方自治と防災・防衛」の記載等、防災行政の取組について多面的に記載されている。(p. 4, 116-117)	○「学習を深めるために」では、「ミニ知識」や教科書で取りあげている人物が一覧に示され、歴史の学習で登場した人物名も多く取りあげられている。(巻頭vii) ○「課題の探求」ではディベートについて示され、「ディベート進行の例」「ディベート実践例」によって、活動する際の興味を喚起するとともに実践時のサポートにも配慮されている。(p. 218-223)	○全72単元が通し番号で示しており、学習の進度を把握しやすいよう工夫されている。 ○巻末の特集では、日本の伝統的工芸品が地図とともに紹介され、日本の技術や伝統について考えることができるよう工夫されている。(p. 260-261)	○一つ一つの資料や写真を大きく掲載し、本文の行間も広く、生徒が学習に取り組みやすいよう配慮されている。(p. 11) ○巻頭・巻末の写真やコラム「もっと知りたい」では、日本の技術や伝統・文化について写真とともに説明され、関心を高めることができるようになっている。(p. 巻頭 i, 18-19) ○図、写真などの資料が少ない。 ○QRコンテンツがない。
R	○図表、写真等の資料が多く、本文中のことがらに関連する資料番号や教科書のページが記載されている。各ページに節の課題が記載されており、毎時間の課題解決を意識して学習に臨むことができるよう工夫されている。(p. 14) ○巻末の「学習資料」では、「法令集」や「用語解説」に紙面を多く使って詳しく記載し、生徒の主体的な学習に向けて配慮されている。(p. 218 252)	○各章を「課題をつかむ」「課題について調べる」「課題についてまとめる・表現する」という、問題解決型の学習を意識した構成とし、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すよう工夫されている。(p. 4-5) ○「入り口」で章の学習の動機付けをし、「これから」で章の学習を振り返り、さらに学びを深める課題を設け、章を通じた学習が展開できるよう工夫されている。(p. 118-119, 168-169)	○各章の冒頭には、「どうして〇〇を学ぶの？」が設定されており、学習意欲が高まるよう工夫されている。(p. 38) ○「やってみよう」では、個人やグループで取り組む活動が設定されている。「人生をデザインしよう」では、ライフプランを立てながら経費等をシミュレーションして経済とのかかわりを学ぶことができるよう工夫されている。(p. 166-167)	○竹島問題について、特設ページを設け、キャラクターが問いや疑問をつぶやくことで、視点をもって考えることができるよう工夫されている。(p. 190-193) ○法の下での平等やさまざまな人権課題についての本文や特設ページを参考に、差別のない社会を築くにはどうしたらよいか考えられる内容となっている。(p. 58-63)	○地理・歴史で学習した内容について、小単元名の下にアイコンと内容を示し、公民の学習と地理、歴史の学習を結びつけることができるよう工夫されている。(p. 46, 52) ○中学生の起業や生徒に身近なサブスクリプション・サービスについて例を示し、経済社会と自分とのかかわりについて思考が広がるよう工夫されている。(p. 14, 133)	○「なぜ『公民』を学ぶのか」では、各分野の関係を概念図で示すことで、分野間のつながりを意識して公民の学習に臨めるよう工夫されている。(巻頭③, p. 1) ○特設ページでは、日本の伝統文化を分類して取りあげ、文化の系統を踏まえて学習できるよう工夫されている。(p. 214-215)	○巻頭の「なぜ『公民』を学ぶのか」や各章の冒頭に「どうして〇〇を学ぶの？」のコーナーがあり、教科書全体を通して、生徒の学習意欲を高めるよう工夫されている。(p. 巻頭③, p. 1) ○見開きの左上に、本時のテーマ、節の課題、本時の課題が一目でわかるように書かれており、単元を通じた学びが意識されている。(p. 14) ○写真の色合いが良くない。ユニバーサルカラーとはいいいにくい。 ○QRコンテンツは目次のページに1か所ある。

選 定 に 必 要 な 資 料

地図

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	○A版176ページで、大きな紙面になっている。UDフォントや縁取り文字を使用し、不要な陰影や立体感が少なく淡い彩色を採用している。 ○「この地図の活用方法」では、一般図の見方や様々な主題図の種類、主題の表し方について説明されており、地図を使った学習に向かいやすいよう工夫されている。	○巻末では、人口や農林水産業、エネルギー等のテーマごとに世界の様子と日本の様子を対比できる構成となっており、それぞれの比較を通して、考察できるよう工夫されている。 ○資料には「ジャンプ」のマークが付けられているものがあり、1つの資料を他のページの資料と関連付けて考えることができるよう工夫されている。	○Bee's eyeでは、地図を深く読み取るためのヒントとなる問いが設定され、生徒が取り組みやすいよう工夫されている。 ○デジタル地球儀や世界の景観がVRで体感できる等のデジタルコンテンツが多彩で、生徒の興味・関心に応じて情報にアクセスできるよう工夫されている。	○中国地方では、竹島の拡大図が掲載され、日本周辺の地図では、航空写真とともに日本固有の領土であることや領土問題に関する記載がある。 ○デジタルコンテンツからも竹島・北方領土・尖閣諸島といった領土をめぐる問題をかえる島々の地理的特色を示した資料にアクセスできるようになっている。	○歴史や公民の学習内容と関連が深い地図にはマークが付けられており、それぞれの分野の学習でも活用できるよう工夫がなされている。 ○歴史と治水に関して、大きく取り上げており、地理と歴史のつながりを感じることができるよう工夫されている。	○巻末の日本の統計では、各都道府県の人口構成割合や県内総生産の産業別割合が帯グラフで示されており、特徴が視覚的にとらえやすいよう工夫がなされている。 ○巻末には、世界の経済・国勢関係に関する主題図や資料が整理されており、公民的分野の学習につなげることができるよう工夫されている。	○掲載されている資料が絞られており、その分1つ1つの資料が大きくて見やすい構成になっている。 ○見開きページのほとんどにQRコードが付けてあり、デジタル地球儀、地図を活用する技能の解説、統計資料、クイズなど学びを深めるためのデジタルコンテンツが豊富にある。
J	○A版198ページで、大きな紙面になっている。UDフォントや縁取り文字を使用し、濃淡がはっきりした彩色を採用している。 ○「この地図帳の使い方」が3ページ設けられており、小学校で学習したことを振り返ったり、地図の種類や地図帳の見方・使い方を確認したりと、地図の使用法が丁寧に示されている。	○各地域の主題図は可能な限り同縮尺で示されており見比べやすいよう工夫がされている。また、日本の主題図において、どの地方でも取り上げるテーマが共通しており、比較、考察しやすいよう工夫されている。 ○「地図で発見！」のコーナーでは、社会科の学習内容を地図をもとに確認したり深めたりする問いが設けられている。	○多くの州・地方に立体的かつイラストを配した鳥瞰図が載せられており、地域的な特色や人々の生活等を捉えやすいよう工夫されている。 ○「世界の生活・文化」や「日本の歴史・生活・文化」に多くページが割かれており、写真やイラストの種類が豊富で、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。	○竹島の標高色別の拡大図や航空写真が掲載され、領土問題に関する記載がある。また、朝鮮半島の大判地図や大陸から見た日本地図など、位置や距離が掴みやすいよう工夫されている。 ○デジタルコンテンツからも歴史的分野・公民的分野における竹島等の領土に関わる資料にアクセスできるようになっている。	○巻頭で持続可能な社会という視点で複数のテーマを設け、地図や主題図ならびに写真資料を掲載し、SDGsについて考えることができるよう工夫されている。 ○日本の自然災害・防災について4ページにわたり資料が示されており、様々な災害に対する取り組みについて学習できるよう工夫がされている。	○「持続可能な社会を考える統計」や「日本の市と人口」など、様々な統計資料を9ページにわたり掲載している。 ○世界のすべての地域の資料に「日本との結びつき」を取り上げ、各地域と日本との関係について追究しやすいよう工夫されている。	○各地域において地図だけでなく、主題図やグラフ等の資料が豊富で、多くの資料から課題を追究できるよう工夫されている。 ○世界の各州、日本の地方の資料のページにQRコードが付けられており、地図帳の使い方解説アニメーション、世界や日本の各地域の地図や資料、統計資料などデジタルコンテンツが豊富にある。

選 定 に 必 要 な 資 料

数学科

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	○「大切にしたい数学の学び方」や「この本の構成と使い方」では、生徒が見通しをもち、主体的に学習できるよう教科書の使い方等が丁寧に記載されている。 (1年巻頭-p.10) ○章末の問題はA、Bの2段階で構成されている。また巻末の補充問題には難易度の異なる問題が設けられ、一人一人の学習状況に応じて取り組めるよう配慮されている。 (2年p. 32-34, 217-228)	○1年0章導入の「九九表のきまりを見つけよう」で素数等について学んだあと「正負の数」の学習へつながっており、内容の配列が工夫されている。 (1年p. 12-18) ○章や節の最初に、これからの学習と関連した日常の課題が示され、解決の見通しをもたせ、章や節の学習につながるよう工夫されている。 (2年p. 35, 49)	○「数学のまど」「数学×伝統工芸士」では、身の回りの写真を使い、数学と日常生活が関連付けられ、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。 (1年p. 28, 186-187) ○「深い学び」では、活用問題が設けられ、学習内容と身の回りの事象との関連が図られるよう工夫されている。 (3年p. 203)	○「もっと数学をつなげよう」には、「補充の問題」「数学の自由研究」が設けられ、生徒一人一人に合わせた学習が展開できるよう工夫されている。 (3年p. 225-270) ○巻末に、各章の学習で働かせた数学的な見方・考え方を振り返るコーナーを設定し、既習事項を確認できるよう工夫されている。 (1年p. 250-255)	○「数学の自由研究」ではSDGsを題材に取り上げ、生徒が社会問題の解決に数学を活用できるよう配慮されている。 (2年p. 233) ○島根県の「まちづくり条例」を題材に取り上げ、住みやすいまちづくりに向け、目的意識をもって生徒が数学を活用できるよう工夫されている。 (1年p. 189)	○仕事の中で数学を活用している人を紹介し、生徒も数学を用いた日常の問題解決を体験できるよう工夫されている。 (3年p. 122-123) ○正多面体を作ることができる紙教具が用意され、操作を通して立体図形の特徴を確かめられるよう工夫されている。 (1年p. 195, 313-318)	○マークや色分けによって内容や難易度がとらえられ、キャラクターからのアドバイスで、生徒が解決の見通しをもてるよう配慮されている。 (2年p. 8, 9, 15) ○学習のめあてや、解決までの過程が具体的に示されており、生徒が目的意識や見通しをもって学習できるよう配慮されている。 (1年p. 12-13)
B	○「この教科書の使い方」で学習の流れを説明し、生徒が見通しをもって学習したり、問題発見・解決の過程を意識したりできるよう工夫されている。 (1年p. 4-11) ○ページの右端に「プラス・ワン」として補助問題と解答が示しており、個に応じた学習に対応できるよう工夫されている。 (1年p. 39-40)	○各章の1節は「考えよう」で課題を提示し、「めあて」「活動」という流れで構成している。生徒が見通しをもって学習できるよう工夫されている。 (1年p. 102-103) ○1年1章「数の世界のひろがり」で、素数等について学んだあと「正の数、負の数」の学習につながるよう、内容の配列が工夫されている。 (1年p. 12-17)	○章の扉で、これから学ぶ内容を日常場面から発見できるようにしたり、章末の「活用・探究」では、学習した内容を身近な場面に活用する問題を掲載したりする等、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。 (2年p. 66-67, 96) ○「学びにプラス」では高校数学とのつながりを意識できる題材を取り上げ、生徒が興味・関心をもてるよう工夫されている。 (3年p. 43)	○巻頭に数学的な見方・考え方の具体例を挙げ、生徒が数学的な見方・考え方を働かせて学習できるよう工夫されている。 (1年p. 9) ○「もっと数学の世界へ」では、「課題学習」「補充問題」「総合問題」などが設けられ、生徒が様々な問題に取り組めるよう工夫されている。 (2年p. 201-205, 218-227)	○「社会にリンク」では、仕事の中で数学を役立てている人へのインタビューを掲載し、生徒が実生活と数学とのつながりを感じたり、数学を学ぶ意義について考えたりできるよう工夫されている。 (1年p. 163) ○「MATHFUL」に数学に関する資料を掲載し、生徒が数学と他教科等との関連について理解を深められるよう工夫されている。 (3年p. 242-253)	○紙教具が準備され、実際に観察、操作したり、試行錯誤したりして思考力、判断力、表現力等が育まれるよう配慮されている。 (1年p. 付録、3年p. 付録) ○付録「1年のまとめ」「2年のまとめ」があり、切り取って次の学年でも活用できるよう工夫されている。 (1, 2年付録p. 1-4)	○章の最後の節では、巻頭の「数学の世界へようこそ」の流れに沿って、生徒が問題発見・解決の過程で学習できるよう工夫されている。 (3年p. 7-9, 69-70) ○「活用・探究」では、生活をよりよくする視点から課題が設定されており、実生活で数学を活用しようとする態度が育まれるよう工夫されている。 (2年p. 96)

選 定 に 必 要 な 資 料

数学科

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
E	○学習に関連する既習事項を確認できるよう「ふりかえり」のページを設けている。生徒が既習事項を生かしながら学習を進められるよう工夫されている。(1年p. 8) ○章末のまとめでは、「基本」「応用」「活用」と問題を分けたり、巻末に計算問題や復習問題を設けたりし、学習内容が定着するよう工夫されている。(2年p. 34-3)	○基本の作図を学習した後、「平行線と面積」の内容を扱っており、生徒が作図と図形の性質の関連をとらえられるよう工夫されている。(1年p. 184-186) ○「図形の性質の調べ方」の単元末に図形の性質のまとめを掲載し、証明の根拠となることがらが確認できるよう工夫されている。(2年p. 138-139)	○「Tea Break」では、学習内容を深めたり広げたりする興味深い内容を取り上げ、数学のおもしろさや有用性を実感できるよう工夫されている。(3年p. 62) ○立体の投影図について生徒の理解を支援する動きのある図をページの右上に掲載し生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(1年p. 209-229)	○協働学習のページ「さらなる数学へ」には、数学的な見方・考え方の具体例や学習の進め方がまとめられ、生徒が確かめられるよう工夫されている。(2年p. 217-227) ○箱ひげ図について基礎的な内容を学習した後、複数の箱ひげ図を比較し、話し合ったりと、判断したりする課題を設定し、学んだことを活用できるよう工夫されている。(2年p. 201-215)	○各節の導入や「章のまとめの問題」の「活用」では、環境等に関する問題を取り上げている。問題を解決することを通して、生徒が学習内容と実生活との関連を意識できるよう工夫されている。(3年p. 136) ○数学と他教科等との関連について紹介し、生徒が数学のおもしろさや有用性を実感できるよう工夫されている。(1年p. 118, 3年p. 124)	○巻末に「表現する力を身につけよう」を設け、レポートや発表のしかたを例示し、生徒に数学のおもしろさが伝わるよう工夫されている。(1年p. 282-285) ○巻末には「図形の性質のまとめ」が折込で設けられ、必要に応じて振り返ることができるよう配慮されている。(3年p. 313)	○章の学習後「できるようになったこと」をチェックしたり、「さらに学んでみたいこと」を記述したりする欄が設けられており、学びを振り返ることができるよう工夫されている。(2年p. 141) ○教科書の余白に数学的な見方・考え方を示し、生徒が数学的な見方・考え方を働かせることを意識できるよう工夫されている。(1年p. 151)
G	○「例題」と「問」の間に、類似した問題「たしかめ」を設け、スモールステップで学習内容を習得できるよう配慮されている。(1年p. 238) ○1年の1章「整数の見方」では、素数と素因数分解について扱い、数の見方を広げてから、2章「正の数、負の数」につないでおり、内容の構成が工夫されている。(1年p. 13-22)	○各章の冒頭に「□□を学習する前に」が設けられ、これから学習する内容に関連する既習事項を確認できるようにし、生徒がその後の学習に取り組みやすくなるよう配慮されている。(3年p. 78) ○学習した内容を簡潔にまとめた「学習のまとめ」が章末に設けられており、その後の問題演習につながるよう配慮されている。(3年p. 74)	○章の冒頭に数学に関わる話題を取り上げ、生徒が興味・関心をもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。(2年p. 13) ○社会で活躍している人へのインタビュー「数学しごと人」を掲載し、実社会で数学が役立っていることや数学を学ぶ意義が実感できるよう工夫されている。(2年p. 146-147)	○巻頭に「大切にしたい数学的な見方・考え方」の具体例を挙げ、生徒が数学的な見方・考え方を働かせて学習できるよう工夫されている。(全学年p. 6-9) ○学力調査等でつまずきの見られる内容の問題について、誤答を例示し、解が正しくない理由を考えることで、意味理解が深まるよう工夫されている。(3年p. 18)	○巻末の「数学ライブラリー」では、数学に関連する実生活の出来事や他教科、歴史等を取り上げ、生徒が数学の有用性を実感できるよう工夫されている。(3年p. 249-259) ○SDGs「13 気候変動に具体的な対策を」に関連した題材を取り上げ、持続可能な社会の実現に向けて数学を活用できるよう工夫されている。(3年p. 252-253)	○各学年、1章を終えたところで、ノートの効果的な活用例を示し、家庭学習や自主学習につながるよう工夫されている。(2年p. 42-43) ○「章の問題」では、問いごとに生徒が記号で自己評価し、繰り返し学習ができるよう工夫されている。(1年p. 245-247)	○「学びのマップ」が設けられ、小学校の学習内容を含め既習事項の振り返りを効果的に行うことができるよう配慮されている。(3年p. 264-275) ○章内や章末の「数学の広場」では、学習内容を広げたり、深めたりするコラム等を掲載し、生徒が数学の有用性や実社会とのつながりを意識できるよう工夫されている。(3年p. 118)

選 定 に 必 要 な 資 料

数学科

N O . 3

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
L	○小学校や下学年の学習内容を確認できる「学びをふりかえろう」が設けられ、生徒が自分で学習を確かめられるよう配慮されている。(1年p. 248) ○「学びをたしかめよう」では、「□□を理解していますか」という言葉が示されたり、チェック欄を設けたりして、その章で学習したことを振り返ることができるよう工夫されている。(3年p. 178-179)	○「□□の利用」の節には「ステップ」に沿って、問題を設定し、解決し、考えを深める過程が示され、主体的・対話的で深い学びとなるよう工夫されている。(2年p. 157-159) ○SDGsに関する題材を取り上げ、社会問題の解決に数学を用いて考えられるよう配慮されている。(2年p. 187)	○数学を学ぶよさを実感できるように、生活に役立てることのできる数学の題材を掲載しており、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(2年p. 116-117) ○吹き出しを用いて本文を補ったり、生徒に気付きを促したり、生徒が解決の見通しをもって取り組めるよう配慮されている。(1年p. 88-89)	○証明の学習の中で、図形の性質が証明に活用できることを紹介し、証明に必要な条件や図形の性質の理解が深まるよう工夫されている。(2年p. 131) ○巻末の「力をつけよう」では、発展的な問題や過去の公立高等学校の入試問題を掲載し、生徒が様々な問題に取り組めるよう工夫されている。(2年p. 199)	○「節のとびら」「数学ライブラリー」では、身の回りの題材や他教科等と関連する題材を取り上げ、数学のよさを感じられるよう工夫されている。(2年p. 36-37, 186) ○「学びをいかそう」では、身の回りの課題や、数学を発展・深化させる課題を取り上げ、生徒が数学の有用性やおもしろさを感じることができるよう工夫されている。(2年p. 212-213)	○問題が「例」「例題」「問」と段階的に設定され、問題を解きながら生徒の理解が深まるよう工夫されている。(1年p. 94-95) ○ノートのとり方を例示し、学習したことや考えたことが整理され、生徒の理解が深まるよう工夫されている。(1年p. 8-9)	○「たいせつな考え方」について、文に下線を引くとともに、「標識」を教科書右側余白に示すことで、生徒が考え方を繰り返し働かせることができるよう工夫されている。(1年p. 6-7, 196) ○「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」を設け、協働的に学ぶ活動を通して、生徒の表現力が育成されるよう工夫されている。(1年p. 59)
N	○全国学力調査等で課題のあった問題について、3ページを使用して丁寧に説明し、理解が深まるよう配慮されている。(1年p. 122-124) ○各章ごとに「問題A」「問題B」「学んだことを活用しよう」が設けられ、一人一人の生徒に合わせて問題に取り組むことができるよう工夫されている。(1年p. 58-60)	○各章の学習に入る前に、「□□の学習の前に」という復習問題を扱ったページが設けられ、既習事項の確認とこれからの学習への準備ができるよう構成が工夫されている。(3年p. 45) ○その時間の学習のめあてや、解決に向けた具体的な活動が示され、生徒が理解を深めながら学習できるよう配慮されている。(1年p. 38)	○身近な問題を取り上げ、生徒が興味・関心を高め、数学的に解決する数学的活動を通して学び、数学のよさを実感できるよう工夫されている。(2年p. 194) ○「標本調査」では、パソコンの表計算ソフトを用いた乱数表が提示され、表計算ソフトの有用性を学べるよう工夫されている。(3年p. 242-243)	○「学びの自己評価」には、数学の学びにおいて大事にしたいことが整理されており、チェックすることで自己の学習の状況を確認できるよう工夫されている。(全学年巻末) ○「ぐんぐんのばそうチャレンジ編」では、発展的な問題を掲載し、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。(1年p. 269-291)	○巻末の「数学旅行」では、実生活、他教科、歴史等を取り上げ、数学の有用性や楽しさを感じることができるよう工夫されている。(3年p. 253-264) ○SDGsに関する題材を取り上げ、数学の学習を通してこれらの社会問題を考えられるよう配慮されている。(3年p. 256)	○「空間図形」において仁摩サンドミュージアムの写真を掲載され、生徒が数学を身近に感じられるよう工夫されている。(1年p. 190) ○1年と3年の巻末に授業で使用する紙教具が付いており、操作活動を通して、原理や性質を実感しながら学ぶことができるよう工夫されている。(1年・3年巻末)	○生徒キャラクターの対話を通して、基礎的な内容を学びながら数学的な見方・考え方が働くよう工夫されている。(1年p. 149) ○全国学力調査等で課題となっている「説明すること」に対応するための問題を取り上げ、数学的に説明をする力が付くよう工夫されている。(1年p. 243, 2年p. 167, 3年p. 133)

選 定 に 必 要 な 資 料

数学科

N O . 4

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
○	○見開き2ページを1つの小節とすることを基本とし、学習課題、めあてを示し、生徒が見通しをもって学習できるよう配慮されている。(3年p. 58-59) ○「問」や節末の「基本の問題」は、「例」と同程度の問題となっており、基礎的・基本的な内容が確実に定着できるよう配慮されている。(1年p. 49, 51)	○各章の直前に「次の章を学ぶ前に」という復習問題のページが設けてあり、既習事項の確認と次の学習への準備ができる構成となっている。(1年p. 115) ○「学び合おう」では、日常生活や社会の事象、数学の事象から問題を見出し、解決する過程が丁寧に示され、主体的・対話的で深い学びとなるよう工夫されている。(3年p. 36-37)	○「数学のたんけん」では、学んだ内容に関連した話題を掲載し、知識を補充しながら、興味・関心を高めることができるよう工夫されている。(3年p. 122) ○各章のはじめには、実生活の場面を表す写真やイラストとそれに関連した疑問が吹き出しで掲載され、これから始まる学習への興味・関心を高めることができるよう工夫されている。(2年p. 168-169)	○まちがしやすい問題では、「まちがいの例」を提示し、正しくない理由を説明することで、意味理解をより深められるよう工夫されている。(1年p. 79) ○「身近なことから」「次の課題」では、日常生活や社会の事象、数学の事象から問題を見出し、解決する数学的活動を通して、数学のよさが実感できるよう工夫されている。(2年p. 86, 3年p. 47)	○巻末の「数学マイトライ」では、実生活、他教科、歴史、SDGs等に関連する数学の内容を取り上げ、生徒が数学の有用性やおもしろさを感じることができるよう工夫されている。(2年p. 201-215) ○「身近なことから」では、日常の事象について生徒が協働的な学びを通して解決できるよう工夫されている。(3年p. 174-175)	○巻末に「プログラムと数学」が設けてあり、Scratchによる4つのプログラミングが体験できるよう工夫されている。(2年p. 214-215) ○巻末に「補充問題」「総合問題」「活用問題」「ステップアップ」が設けられ、生徒一人一人の学習状況に応じて取り組むことができるよう配慮されている。(3年p. 234-261)	○学習過程で働かせる数学的な見方・考え方を「大切な見方・考え方」として教科書余白に示し、生徒が意識して繰り返し働かせることができるよう工夫されている。(1年p. 99) ○切り離してノートに貼ることもできる「ふり返しシート」「対話シート」が巻末に用意されており、協働的な学びを通して、考えを深めることができるよう工夫されている。(2年p. 245-259)

選 定 に 必 要 な 資 料

理科

NO. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	○各単元のはじめに「これまでに学んだこと」が示してあり、生徒のレディネスを確認しながら授業を展開できるようになっている。 ○QRコンテンツが豊富に用意されていて、生徒の探求的な学びをサポートしたり、学習を定着したりしやすいように配慮されている。	○紙面下部に探求のステップが言語化してアイコンで示してあり、フローチャートで探求の流れを確認できるように工夫されている。 ○単元に単元に1つ程度「じっくり探究」の節が設定され、理科の見方・考え方や生徒の対話の具体例を示し、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されている。	○単元扉や章扉の「スタート動画」、節の初めの「レッツスタート!」には、身近な題材が取り上げられ、生徒が問題に気づき、目的意識をもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。(1年p. 91-92, 2年p. 171-172, 3年p. 47-48) ○「歴史にアクセス」では、漫画で科学史における重要な人物や発見が掲載されていて、生徒の興味・関心を高められるようになっている。	○1年では「ジオパークへ行こう」に知夫赤壁、2年では「金属利用の歴史」に雲南省のたたら製鉄が取り上げられ、地域の資源に興味を持ちやすいように工夫されている。 ○単元や章末に「確かめ問題」「活用問題」や「例題」が掲載されるとともに、デジタルコンテンツによって答え合わせができる機能があり、生徒が家庭学習に取り組みやすいよう配慮されている。(1年p. 134-136, 3年p. 122-124)	○コラム「社会につながる科学」や「学びを生活や社会に広げよう」が掲載されていて、学習内容と実生活を結び付けやすいように工夫されている。 ○各学年の単元の1つに自然災害や防災に触れる単元が用意されていて、3年間を通して系統的に防災・減災への意識を養えるように工夫されている。	○「?に対する自分の考えをまとめよう」で、各節の課題に対する結論を自分の言葉で表現する構成になっており、思考力、判断力、表現力等を高められるよう工夫されている。(1年p. 20, 2年p. 19, 3年p. 15) ○「科学の本だな」、コラム「まちなか科学」、「社会につながる科学」等によって、一人一人の興味・関心に応じて学習した内容を深められるよう工夫されている。(1年p. 5, 79, 2年p. 85, 3年p. 307)	
B	○各単元の初めに見開きで既習事項が図や写真を用いてわかりやすく掲載されており、生徒が新たな学習に向かいやすくなるよう工夫されている。(1年p. 10-11, 2年p. 8-9, 3年p. 8-9) ○本文は端的な文章で書かれ、ページ周辺部の資料等が精選されているため、学習内容の要点をつかみやすくなっている。	○観察・実験では、「目的」とは別に「着目点」が示され、具体的に何を明らかにしたいのかを明確にしてあり、見通しをもって観察・実験に臨めるよう工夫されている。(2年p. 85) ○「問題を見つけよう」「計画を立てよう」「話し合おう」など生徒の具体的な会話の場面が掲載されており、対話しながら協働的に学びを深められるよう工夫されている。(1年p. 26, 2年p. 98, 3年p. 39)	○各単元末に「探究活動」があり、学習した単元に関連するテーマが紹介されており、生徒自身で探究を進められるよう工夫されている。(1年p. 64-65, 2年p. 148-149, 3年p. 76-77) ○各章にコラム「Science Press」「科学のあしあと」があり、科学の歴史、科学と日常生活や社会とを関連付けて考えることで、生徒が興味・関心を高められるよう工夫されている。(1年p. 99, 2年p. 59, 3年p. 68)	○「情報収集・整理のしかた」では、インターネットやコンピュータを利用する際のルールや注意を喚起し、情報を正しく安全に利用できるよう工夫されている。(1年p. 270) ○1年では、火山岩と深成岩のつくりにより御碕の流紋岩が、「ジオパークを見学してみよう」に隠岐が紹介されており、地域の資源に興味をもてるよう工夫されている。(1年p. 215, 280)	○「くらしの中の理科」では、学習内容が日常生活や社会で活用されている話題が紹介され、生徒の興味・関心を高められるよう工夫されている。(1年p. 101, 2年p. 212, 3年p. 19) ○「Professional」では、理科やSTEAMに関連した職業が取り上げられ、生徒が将来に向けて職業観を育めるよう工夫されている。(1年p. 63, 2年p. 255, 3年p. 318)	○1年巻末では、「見方・考え方」を参考にしながら探究を進めることで、理科の見方・考え方を働かせて課題を解決できるよう工夫されている。(1年p. 268-273) ○1・2年に「生物を見に行こう!」、全学年に「行ってみよう! 科学館・博物館」があり、校外施設等と連携が図られるよう工夫されている。(1年p. 292-293, 2年p. 300-301, 3年p. 336-337)	

選 定 に 必 要 な 資 料

理科

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
E	○巻頭のコラム「理路整然」では、生徒が自身の気づきから課題を見出し、探究する道筋が示され、探究する際の心構えや倫理観を育むよう工夫されている。(1年p. 45, 2年p. 4-5, 3年p. 4-5) ○観察、実験では、一連の探究の過程がラインと矢印で示されており、生徒が課題を意識しながら見通しをもち探究活動が進められるよう工夫されている。(1年p. 75-78, 2年p. 11-14, 3年p. 11-14)	○単元の初めに「Can - DoList」として資質・能力が明示されており、単元の学習に見通しと目的意識をもって向かえるよう配慮されている。(1年p. 7, 2年p. 7, 3年p. 7) ○「探究」では、課題解決に向けた話合いの様子がイラストを用いて示されており、他者の意見を尊重し、協力し合う態度を育めるよう工夫されている。(1年p. 69, 2年p. 19, 3年p. 11)	○多くの写真資料が大きく、鮮明に掲載されており、生徒が自然の事物・現象に対して興味・関心を高められるよう工夫されている。(1年p. 76, 77, 2年p. 78-79, 3年p. 18, 19) ○探究活動の導入「気づき」では、身近な現象・事象や、前時の学習からつながる事柄を、図版やキャラクターの会話で示し、興味・関心をもって探究に取り組めるよう工夫されている。(1年p. 51, 2年p. 121, 3年p. 89)	○コラム「理路整然」では、探究の過程を深めるための視点や、身近な場面で探究の手法を生かす例が紹介され、生徒が探究の過程を通して学びを深められるよう工夫されている。(1年p. 200, 201, 2年p. 33, 3年p. 75) ○1年の「地層から過去を読みとる」に出雲市の地層、2年の「気象に関わる恵み・災害」に江津市の風力発電の様子が紹介されており、地域の資源に興味をもてるよう工夫されている。(1年p. 170, 2年p. 234)	○巻頭の「なぜ理科を学ぶの？」では、理科を学ぶことの意味、社会とのつながりを漫画でわかりやすく示しており、実生活との関連性が意識できるよう工夫されている。(1年p. 2-3, 2年p. 2-3, 3年p. 2-3) ○各章の扉にSDGsとの関連がマークで示されるとともに資料も掲載される等、持続可能な社会の実現について、理科の学習を踏まえて考えられるよう工夫されている。(1年p. 9, 2年p. 240-241, 3年p. 232-233)	○巻末の「思考をさらに深める」では、全国学力・学習状況調査等の問題を掲載し、思考力、判断力、表現力等の向上を図ることができるよう工夫されている。(1年p. 241, 252, 2年p. 271-291, 3年p. 275-291) ○「ミライ教科書」にアクセスできる二次元コードが掲載され、生徒の興味や必要性に応じた学習ができるよう工夫されている。	○コラム「理路整然」では、文章を書く、読み取る例や身近な場面で探究の手法を生かす例が紹介され、生徒の思考力、判断力、表現力等を育めるよう工夫されている。(1年p. 200-201, 2年p. 33, 3年p. 75) ○単元の初めに「Can-Do List」があり、生徒が自分で「できるようになりたい目標」をチェックできるようになっており、科学的に探究するために必要な資質・能力を意識して学習することができるよう工夫されている。(1年p. 7, 2年p. 7, 3年p. 7)
G	○本文の文字が大きく、字間や行間も余裕があり、生徒が読みやすくなるよう配慮されている。 ○巻頭に「探究の進め方」が折込で示されており、本文ページを開いた状態で生徒が探究の過程のどの段階にいるのかを確認できるよう工夫されている。(1年巻頭⑤, 2年巻頭⑤, 3年巻頭⑤)	○各単元に1～2か所ずつ「疑問から探究してみよう」が設定されており、生徒の科学的に探究する力を重点的に育めるよう配慮されている。(1年p. 222-226, 2年p. 64, 69, 3年p. 45-48) ○「話し合おう」が課題や仮説の設定、観察、実験の計画の立案、結果の処理、考察等の各場面があり、生徒一人一人が自分の考えをもとに話合いができるよう配慮されている。(1年p. 10, 2年p. 27, 3年p. 208)	○コラム「ハローサイエンス」では、科学と歴史との関連、高校レベルの発展的内容等にふれることができ、生徒が興味・関心を高められよう工夫されている。(1年p. 160, 161, 2年p. 22, 3年p. 51) ○二次元コードからアクセスできる「まなびリンク」があり、計測によって読み取った数値を記録できる表や要点のチェックなどICT機器を活用した学習の質の向上に配慮されている。(1年巻頭②)	○5段階のステップで、「基本問題」「活用問題」「巻末の「学年末総合問題」が多く掲載されており、生徒が家庭学習に活用しやすいよう工夫されている。(1年p. 258, 265, 2年p. 280-287, 3年p. 308-313) ○「理科室のきまりと応急処置」では、実験中に地震が起きたときや感染症が広がっているときの注意事項が記載されており、安全に観察、実験ができるよう配慮されている。(全学年p. 2-3)	○コラム「ハローサイエンス」では、身近な科学の話題や最先端の話題を取り上げ、生徒が日常生活や社会と学習内容とを結びつけられるよう工夫されている。(1年p. 119, 2年p. 54, 3年p. 97) ○各単元末の「広がる科学の世界」では、学習した内容が実際に活用されている場面が紹介されており、生徒が科学と実生活との関連を実感しやすいよう工夫されている。(1年p. 69, 2年p. 77, 3年p. 65)	○実験結果を教科書に書き込むページが多く、生徒が実験や最先端の話題を取り上げ、生徒が日常生活や社会と学習内容とを結びつけられるよう工夫されている。(1年p. 153, 2年p. 39, 3年p. 9) ○本文中の重要用語が太い朱色の文字で示されており、生徒が視覚的に捉えやすくなるよう工夫されている。(1年p. 59, 2年p. 72-73, 3年p. 10)	○「疑問から探究してみよう」や「探究の進め方」の折込によって、生徒の科学的に探究するために必要な資質・能力を育めるよう工夫されている。(1年p. 222-226, 巻頭⑤, 2年p. 64-69, 巻頭⑤, 3年p. 45-48, 巻頭⑤) ○本文の文字が大きく示されているとともに、重要用語が読み仮名付きの太い朱色の文字で示されており、生徒が読みやすくなるよう工夫されている。

選 定 に 必 要 な 資 料

理科

N O . 3

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
L	○3学年とも同じ単元順序で配置することで、各 学校のカリキュラムに合わせて、柔軟に単元順序を組みかえしやすいよう工夫されている。 ○各章の初めに「つながる学び」があり、二次元コードからフラッシュ カードで既習事項が確認できるサイトにアクセスでき、生徒が個別に学習の自己評価ができるよう工夫されている。(1年p. 20, 2年p. 4, 3年p. 4)	○「探Q実験」「探Q実習」では、他者の意見を参考に自分の考えの妥当性を検討する場面が設定されており、対話が豊かになるよう工夫されている。(1年p. 89-91, 2年p. 35-37, 3年p. 23-24) ○単元の初めと終わりに「学ぶ前にトライ!」「学んだ後にリトライ!」があり、二次元コードから「ふり返しシート」にアクセスでき、生徒が自己の学習を振り返ることができるよう工夫されている。(1年p. 19, 2年p. 3, 3年p. 3)	○章の導入では、「はてなスイッチ」があり、二次元コードを読み取ると動画が視聴でき、生徒が主体的に問題を見出せるよう工夫されている。(1年p. 20, 2年p. 4, 3年p. 4) ○科学コラムに「部活ラボ」「お料理ラボ」「お仕事ラボ」「防災減災ラボ」等、科学と日常生活の関連について取り上げられており、生徒が興味・関心を高められるよう工夫されている。(1年p. 53, 2年p. 59, 3年p. 159)	○「学年末総合問題」の「つながる問題」では、複数の領域を横断した問題が掲載されており、思考力や読解力を育めるよう工夫されている。(1年p. 256, 2年p. 283, 3年p. 308) ○「深めるラボ」では「日本瓦と日本列島の大地の多様性」において石州瓦が紹介されるとともに、原料が大田市で採掘されている様子が掲載されており、地域の資源に興味をもてるよう工夫されている。(1年p. 72)	○「Action 活用してみよう」では、理科の知識や概念を日常生活等に活用できる場面が設定され、学びが深まるよう工夫されている。(1年p. 157, 2年p. 39, 3年p. 7) ○科学コラムに「お仕事ラボ」があり、職業と理科の学習との関連が図られ、キャリア教育につながるよう配慮されている。(1年p. 108, 2年p. 118, 3年p. 91)	○巻末に「探Qシート」があり、生徒が自分の考えを記述して話し合うなど、言語活動を通して、表現力が豊かになるよう配慮されている。(全学年巻末) ○二次元コードから問題や解説動画などにリンクできるようになっており、生徒が1人1台端末からアクセスし、家庭学習に活用できるよう工夫されている。(1年p. 53, 2年p. 190, 3年p. 8)	○「探Q実験」「探Q実習」「探Qシート」によって、生徒が自分の考えを自由に記述し、他者と対話することで、探究の過程を主体的に追究するよう工夫されている。(1年p. 89-91, 2年p. 35, 37, 3年p. 23-24, 全学年巻末) ○巻頭の「ICTの活用」「ICTでトライ」では、情報の入手、データの処理等の仕方、結果の共有・発表の仕方、観察、実験での活用例等が示され、1人1台端末の活用を促すよう工夫されている。(各学年p. ⑦-⑧)

選 定 に 必 要 な 資 料

音楽（一般）科

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
G	○1年生の歌唱・合唱曲は、変声期前後の生徒も取り組みやすいような同声合唱や混声のものはテナーの音域が低すぎないものが取り上げられている。 ○「表現の仕方を調べてみよう」では、歌舞伎とオペラを比較したり、日本とアジアの声による表現が比較できるような工夫がされている。（2・3年下）	○「Let's Try」では、鑑賞から表現活動に繋げられる内容になっている。合唱から指揮は、曲の場面ごとに指揮の仕方が細かく説明されていて、分かりやすい。（2・3年下P28～29） ○創作では、言葉の抑揚を生かして旋律を作る内容で、手順が分かりやすく、取り組みやすい工夫がされている。	○巻頭の「With My Heart」では、音楽家の思いや、この道に進んだきっかけなど、これから進路を考えていく中学生が興味を持つ内容となっている。 ○巻末に、鑑賞教材に使われる楽器の写真が掲載され、QRコードで教材を演奏している動画が観られるようになっており、各楽器の音色を知るだけでなく、楽曲の中でどのように使われているかを知ることでもある。	○「郷土のさまざまな民謡」では、民謡の種類や音階の種類で分類されており、地域の民謡の特徴を考える手立てが示されている。 ○「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」では、アウトリーチや音楽を通じた教育活動を紹介し、地域や社会での音楽との繋がり の例を紹介している。（2・3年下P66～67）	○「コンピュータと音楽」では、コンピュータと音楽にどのような関わりがあるか、音楽の学習を通して考えるようになっている。 ○「CMソングをつくろう」では、地域の名前や名所を取り入れた創作をすることで、生徒が自分の住む地域の良さを意識できるよう工夫されている。（2・3年下P32～33）	○「作曲家の思いにふれる」では、作曲家の紹介に加えて自筆譜の写真が大きく掲載されており、楽曲を扱う際に、作曲家について、より深く学ぶことができる。 ○「日本の歌・みんなの歌」では、歌詞に出てくる情景をイメージできる写真が大きく掲載されており、歌唱表現を工夫する手がかりにできる。	○音楽を形づくっている要素について、どの学年でも掲載しており、確認したり、意識したりできるようになっている。 ○カラーの図や絵が多く使われており、見て分かりやすい工夫がされている。
H	○歌唱教材では、生徒の実態にあった曲が選択しやすいう、様々な楽曲が取り上げられている。 ○鑑賞教材では、様々な国や時代の音楽が取り上げられ、音楽の多様性を感じることができる内容となっている。	○音楽科で身につけられる資質・能力とそれに対応する学習内容や、教材が示されており、どのような力が身につくのか一目で分かるようになっている。 ○教材ごとに学習目標や目標に迫るためのポイントが示されており、生徒が見通しを持って取り組める工夫がされている。 ○「学びのコンパス」は、主体的・対話的で深い学びを意識した構成になっており、自分の考えを整理しながら学習できる工夫がされている。	○リズムゲームは楽しみながら学べる内容となっており、生徒が興味を持って取り組める工夫がされている。（全学年） ○巻頭に生徒が知っている有名人からのメッセージが掲載されており、生徒が音楽への興味・関心を高めるよう工夫されている。	○日本各地の民謡や郷土芸能が取り上げられており、地元の民謡と比較したり、関連づけて学習に取り組める。 ○全学年で民謡や郷土芸能を取り上げられており、発展した学習ができる。 ○変声期の声の状態や心がけること等を取り上げてあり、生徒の実態に応じて曲の選択ができるように、音域に配慮された合唱曲が掲載されている。	○「生活や社会の中の音や音楽」が全学年で扱われており、普段気にかけていない音に着目したり、「サウンドロゴ」のような暮らしの中での音や音楽の役割について考えられるようになっている。 ○「生活や社会の中の音や音楽」では、音楽に関わる仕事についても取り上げ、文化・教育・人々の支えをなっていることを学ぶ工夫がされている。	○「心の歌歌い継ぐ日本の歌」では、歌詞のイメージに即した大きな写真が掲載されており、情景をイメージしたり、歌唱表現を工夫したりする手がかりにできる。 ○キャラクターの吹き出しの言葉をヒントに、生徒の主体的な学びを促し、思考を深められるように配慮されている。 ○創作の内容において「My Melody」で旋律を、「Let's Create」でリズムを全学年で扱い、学びの積み重ねることができる。	○各教材ごとに、音楽的な見方・考え方の大切な視点となる、音楽を形づくっている要素を例示しており、生徒が意識し、学びやすい工夫がしてある。 ○要所要所にQRコードがあり、合唱の伴奏や鑑賞の譜例、ワークシートが開けるため、タブレットを用いた学習に活用できる。

選 定 に 必 要 な 資 料

音楽（器楽）科

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
G	○「リズムdeゴー」では、1人で演奏するところとみんなで演奏するところがあり、個々の奏法を確認できる工夫がされている。また、1つの音でタンギングに集中し、複数のリズムパターンを練習できる工夫がされている。（P10～11） ○箏の演奏に使用する楽譜を五線譜と縦譜の2種類で掲載されている。	○リコーダーの学習では、楽譜の横にQRコードがあり、範奏を聴いて音色やリズムなどを確認しながら練習が進められる工夫がされている。 ○箏の楽曲では、2重奏できるものが複数あり、奏法だけでなく、表現についてもペアやグループで学習を深められる内容となっている。（P82～89）	○巻頭では、教科書に出てくる様々な楽器が、どのように演奏されているかが分かる写真が掲載されており、生徒の関心が高まる工夫がされている。 ○「弾く楽器」「吹く楽器」で扱った楽器以外の様々な楽器が掲載されていて、比較しながら見やすくなっている。	○太鼓の学習では、祭や伝統行事で使われている様子を紹介し、地元の伝統行事と比較できる内容となっている。 ○「不思議な旋律」では、オプションパートから楽器を選択し、学校の実態に合わせた構成を考えることができる。（p.74）	○「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」では、学習した吹く楽器・弾く楽器から、世界の様々な楽器や伝統文化の調べ学習へ発展させられるようになっている。 ○「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」では、ストリート・ピアノについて掲載しており、実生活での音楽の関わり方を考えるきっかけとできる。	○ギター&キーボードコード表は運指の写真を用い、コードの種類を色で分類しており、視覚的に分かりやすい工夫がされている。	○幅広いジャンルの曲が掲載されており、生徒の実態に応じて選曲できるよう配慮されている。 ○吹く楽器と弾く楽器をまとめて配列されており、「表現の仕方を調べてみよう」では、それぞれの音の出し方や楽器の特徴を比較し、学びが深められるよう工夫がされている。
H	○箏の学習では、姿勢と構えを様々な角度から撮った写真を掲載し、手の位置等が視覚的に分かりやすい。 ○各楽器の奏法だけでなく、「学びのコンパス」（P.55,81,85,）では、曲の構成やパートの役割などを考えるようになっており、生徒がグループで考えながらアンサンブルを深められる工夫がされている。	○ギターの学習では、奏法についても分かりやすい説明があり、関連した練習曲では重奏に発展できる工夫がされている。 ○リコーダーの学習では、アルトリコーダーとソプラノリコーダーの楽譜が掲載されており、学校の実態に応じて選択できるように工夫されている。	○巻頭に生徒の興味・関心の高いドラムセットを演奏している写真が掲載されており、ドラマーのコメントによっても、生徒の興味・関心が高められる。 ○「バンドの世界をのぞいてみよう」では、有名な曲のバンドスコアが掲載されており、バンドへの興味・関心が高められる。	○「伝統の枠を越えて活躍する和楽器」では、和楽器とオーケストラやバンドとの共演が紹介されており、和楽器の発展や可能性について考えられる内容になっている。 ○「日本の伝統音楽の楽器編成」では、鑑賞で取り上げる伝統音楽の楽器編成が一覧にまとめられており、地元の民謡や祭などで使われる楽器と比較できるようになっている。	○各楽器の学習の初めに、その楽器の様々な演奏場面の写真が紹介されており、普段接する機会が少ない楽器が、どのように使われているか視野を広げることができる。 ○「楽しもう和楽器の音楽」では、部活動を通して和楽器に取り組んでいる中学生のインタビューが掲載されており、同世代の活動や言葉から、音楽文化への意識を高められる内容となっている。	○打楽器の学習では、様々な楽器の奏法について、写真も掲載して分かりやすくまとめられている。アンサンブルや創作の活動で活用できる。 ○随所にQRコードがあり、楽器の奏法を確認したり、リコーダーの伴奏で練習したりできるようになっている。また、QRコードの近くに表示があり、何が載っているのかが分かりやすい。	○アンサンブルでは、リコーダー等の旋律楽器だけでなく、打楽器やボーディーパーカッションなどの楽譜も掲載されており、活動の幅が広がる。 ○比較的平易で親しみやすい楽曲が取り上げられており、基礎・基本の定着を図ることができるよう配慮されている。

選 定 に 必 要 な 資 料

美術科

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
D	○1年と2・3年の2冊に整理し、各巻末には「学びの資料」として題材に関する資料が掲載され、授業で活用しやすくなっている。 ○多くの題材で4ページを使っており、たくさんの参考作品や制作過程を示している。学習に見通しを持てるような工夫がされている。(2・3年p10～13)	○掲載されている図版が大きく、さらに原寸大の写真もあることから、題材をより詳しく見たり、作者の息づかいを感じるような構成になっている。 (1年p26～31) ○表現する際の「発想・構想」段階が丁寧に記述されており、具体例が幾通りもしめされており、思考をともなった活動になるような構成である。 (2・3年p20, 21)	○全学年を通してキャラクターが登場し、問いを投げかけることで生徒に気づきをもたらしている。 (1年P23) ○1年、2・3年ともに身近なアニメーションや漫画家、絵本作家やイラスト、CMの題材が使われていて生徒の興味・関心を引き出す工夫がなされている。 (1年P8, 9、P13、P58, 58 2・3年P120, 127)	○共同制作や意見交換、相互鑑賞など、生徒が関わり合いながら学ぶ場面の写真が多く取り上げられ、協働的な学習を促している。 (2・3年p70) ○鑑賞分野における美術館貯蔵作品が豊富。美術館へ行こう(1年P62)など隠岐ではあじわうことのできない美術館について学ぶことができる。	○題材に関してSDGsに繋がる内容を取り上げ、コラムの形で紹介している。 (1年P. 53) ○美術科を学ぶ意義や社会における美術の役割などに触れ教科の魅力を伝えており、生き方と美術(キャリア教育)についてメッセージを伝えている。 (2・3年p. 120-123)	○題材を通して「鑑賞」「発想・構想」「知識・技能」と小見出しをつけることにより題材の学習の見通しを持てるように工夫されている。(1年p22) ○二次元コードでワークシートにアクセスすることができ、教師の経験等に関わらず授業を行うことができるように工夫されている。(1年P14)	○授業の展開に即した紙面構成になっており、題材の狙いや内容が分かりやすく示されている。また、教科書に二次元コードの内容が示されていたり、二次元コードを読み取るとワークシートもダウンロードしたりでき、活用しやすい。(1年P, 14) ○参考作品が多く、イメージが持ちやすかったり、漫画やアニメ、イラストなど生徒が興味・関心をもてるよう工夫されている。(2・3年P20, 21)
I	○題材によって鑑賞部分を多くしたり、表現部分を多くしたりして授業展開に応じた紙面構成の工夫がある。(1年p22-27) ○資料を携行しやすいサイズの別冊とし、学年があがっても既習事項を3年間ふり返って確認できるよう工夫してある。資料は2つ折りにできるコンパクトな設計になっている。	○「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」として和紙で作られたページを設け、日本絵画の特徴を5つに整理して学習できるよう工夫されている。(2・3年p27～42) ○表現の題材において、鑑賞から発想・構想につなげ、制作の後に再び鑑賞をする構成とし、表現と鑑賞を関連付けるよう工夫されている。(1年p24～27)	○資料にある二次元コードにアクセスすることで、描き方の動画などを確認することができる。また、教科書の二次元コードでは、全国の生徒作品を見ることができる。 ○「体感ミュージアム」として、「風神・雷神像」が見下ろすように感じる角度からの撮影、異なる作者の「風神・雷神図屏風」との比較により、生徒の興味・関心を引くような構成である。(1年p36-43)	○表現において「みんなの工夫」として中学生の発想・構想が作者の言葉と写真で掲載されており、少人数の学校でも参考にできるよう工夫されている。 (1年p. 17) ○各題材に「ポイント」として、思考力・判断力を高める言葉かけが工夫されている。(1年P. 30)	○デザイン・工芸のはじめのページに一日の流れとデザイン・工芸との関わりを視覚化し、生活との関連が理解できるよう工夫されている。(2・3年P68, 69) ○「○○科とのつながり」として他教科等との関連を示し、教科等横断的な視点を持って学習に望むことができるよう工夫されている。(2・3年p. 79)	○リングを元にした様々な作品を紹介し、自由に表現できることを示し、発想の広がりをもたせている。 (1年p14) ○ユニバーサルデザイン、防災と美術など現代の課題に対して他教科等との関連を示し、教科等横断的な視点を持って学習に望むことができるよう工夫されている。(2・3年p80-83)	○一つの題材を、参考作品の鑑賞、表現(発想・構想)、関連作品の順に構成し、造形的な要素を「ポイント」で示すなど、学習の過程に沿った紙面の工夫がなされている。 ○別冊の資料では二次元コードにアクセスすることで、描き方の動画や全国の生徒作品を見ることができ、生徒が参考にできるものが多く掲載されている。教員の準備等も楽になる工夫がされている。

選 定 に 必 要 な 資 料

美術科

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
○	○1年は「美術との出会い」、2・3年は上「学びの実感と広がり」、下「学びの探求と未来」に分かれる3冊構成になっており、発達に応じて題材や目標が設定しやすくなっている。 ○題材が豊富で、学校や地域の実態に応じて選択できる。	○表現の題材において、平面での表現の例や立体での表現の例など幅広い表現のできる題材が取り上げられている。(2/3下p10-13) ○「住み続けられる街づくり」は、建物やスペースのデザインにとどまらず、SDGsを意識する街のデザインを取り上げた題材となっている。(2・3下p54, 55)	○生徒へ投げかけるような題材名の工夫がしてあったり、主文の中に問いかけがあったりすることで、興味・関心を高めたり課題意識を持って学習に取り組めるような工夫がしてある。(1年p18) ○3年間の美術科での学びのガイダンス(1年p6)がわかりやすく示されている。	○「造形的な視点」として、造形的な見方・考え方が働き、その題材における造形的な視点が明確に意識できるよう工夫されている。(1年p19) ○「デザインで地域を豊かに」では、単に教室や学校での学習にとどまらず、デザインや美術が地域社会において果たす役割について学習できるよう工夫してある。(2・3下p44, 45)	○「祭りを彩る造形」、「日本の世界文化遺産」など、日本の文化や全国の世界遺産が紹介されており、他教科とも関連して学ぶことができる。(1年p54)(2・3年下p57) ○カリキュラムマネジメントの視点で題材と道徳の価値項目との関連について目標が明記され、美術の授業を通して道徳性が養われるよう配慮されている。(1年p24)	○風神雷神やゲルニカの折り込みページなど迫力のある鑑賞ができる。(1年p24, 25)(2・3年下p26~29) ○教科書の紙面の背景は白が基調となっており、各作品の色調が美しくなるよう工夫してある。	○鑑賞のページが充実しており、図版が大きく、デジタルコンテンツを含め、主文などの問いかけも鑑賞が深まるような言葉がけがされている。(1年p33) ○各題材のねらいが分かりやすく整理されており、学習のポイントを理解して活動できるよう工夫されている。(1年p16, 17)

選 定 に 必 要 な 資 料

保健体育科

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	○各章扉に、小学校で学習したことや高校で学習することが示されており、系統的に見通しを持って学習できるよう工夫されている。 ○各ページの余白を広く設けてあり、本文や資料が見やすいよう配慮されている。 ○資料、章末資料、学習のまとめの字が小さく見にくい。 ○図が多く、文字が少なくとても見やすい。 ○各ページごとの「見つける」で生徒一人一人の話題を投げかけ、学習課題を見つけることができるように設定されている。 ○「活用する」では、学習したことを実生活に活かせるように、個人やグループで考える課題が設定されている。	○「見つける」で課題をつかむところから始まり、「課題の解決」、「活用する」、「広げる」と学習の流れがわかりやすいようレイアウトが工夫されている。 ○各章末に「確認の問題」、「活用の問題」、「日常生活に生かそう」が準備されており、学習内容が定着するよう工夫されている。 ○QRコードを開くと動画が流れるようになっており、とても分かりやすい。	○キャラクターが学習のヒントやポイントを伝えることで、生徒が興味・関心を持ちながら学習できるよう配慮されている。(p. 10) ○学習内容に関連する読み物資料を掲載し、興味・関心を高め、学習内容が深められるよう工夫されている。 ○各章に入る際に偉人の紹介がしてあり、興味・関心を高める工夫がされている。 ○資料が数値化されたもの(データ)が多くていいが中学生には読み取るのに少し難しいことが考えられる。	○各章の終末に「インターネットと依存症」「SDGsから考えよう」などの今日的な課題に関する資料が掲載され、探究的な学習ができるよう工夫されている。 ○各時間の「活用する」では、自分の意見をまとめて発表する活動を通して、学習内容を活用して思考力・判断力・表現力を高められるよう工夫されている。	○「広げる」では、自分たちの生活や身近な地域について考えるよう促し、家庭や社会生活に関連付けて学習できるよう工夫されている。また、QRコードを活用してデータを収集することでさらに広げられるように工夫されている。 ○人間関係やストレスへの対処について、体験的に身に付ける演習が用意されており、具体的な対応を身に付けることができるよう工夫されている。(p. 39, 45) ○学習のまとめの確認問題では、日常生活に生かそうという欄があり、自己の生活を振り返り、今後生活に生かせるようになっている。	○さらに詳しい資料や、動画などが視聴できるように、QRコードで生徒が検索できるようになっている。	○各時間の冒頭の「見つける」でつかんだ学習課題について、資料を手掛かりにして、課題解決につなげていけるよう配慮されている。(p. 22, 23) ○各章扉に、「この章で学習すること」とともに、他教科とのつながりや、学習内容に関わりのある偉人の紹介があり、生徒が興味を持って学習できるよう工夫されている。(p. 91)
B	○学習内容と関連した資料の注釈が見出しについており、本文の内容と資料との関係が分かりやすく記載されている。 ○毎時間学習のねらい・つかもう・話し合ってみよう・活用して深めようなど授業の流れが分かりやすくなっている。 なかでもつかもうや深めようでは、自分の考えを持って授業に入り、学習することで自分の考えを見直し深められるようになっている。 ○各ページの冒頭にトピックスとして、学習内容に係る事柄が掲載されている。 ○ミニ知識やリンクなど、ページの情報量は多い	○左ページが本文内容、右ページが関連資料になっており、生徒が学習内容を整理しやすいよう配慮されている。(p. 16) ○各時間のタイトルのすぐ右に「学習のねらい」として、目標をわかりやすく示すことで、学習内容の見通しが持てるよう工夫されている。(p. 8, 30)	○学習内容と関連の深い話題や読み物が「ミニ知識」や「トピックス」として紹介され、学習を広げたり、深めたりできるよう工夫されている。中でも大谷翔平が紹介され現代の子供たちの興味関心を引くものとなっている。 ○大きく、強い印象をうける写真が使用されており、生徒の興味・関心を高められるよう工夫されている。 ○写真やイラストが多く使われていて、中学生が多く登場することで、親しみを持ちやすいものとなっている。	○心肺蘇生法の手順が折り込み式のページで掲載され、流れと方法を同時に見ることができ、生徒が理解しやすいよう工夫されている。(p. 107, 109) ○各時間に「話し合ってみよう」や「やってみよう」が設定してあり、資料を参考に、学びを深めることができるよう工夫されている。(p. 73) ○傷害の防止では、熱中症の予防のためのフローチャートが掲載されており、生徒が緊急時の対応を整理しやすいようになっている。	○現代的な課題である、スマートフォンなどの情報機器の活用について、口絵に資料を設け、日常生活において生徒の意識が高まるよう配慮されている。(口絵p. 13, 14) ○関連した内容を学習するページを示す「リンク」が設けられ、学習内容のつながりを意識した学習ができるよう配慮されている(p. 20, 56, 150) ○体育理論では、第2章の章末資料では体力向上として様々なスポーツでどんな力が身に付くか図をもとにして分かりやすく説明されている。	○各章の学習のまとめで、Webサイトで「まとめの問題」に生徒自身に取り組めるようになっている。	○左ページが本文内容、右ページが関連資料となっており、生徒が学習内容を整理しやすいよう配慮されている。(p. 16) ○関連した内容を学習するページを示す「リンク」が教科書の同一場所に示されており、生徒がどこに何を書いてあるか分かりやすく。見通しをもって学習できるよう工夫されている。(p. 24, 60) ○見開き2ページを1時間で授業ができるよう工夫されており、そのうち1ページは図でわかりやすく説明されている。 ○各ページの冒頭にトピックスとして、学習内容に係る事柄が掲載されている。

選 定 に 必 要 な 資 料

保健体育科

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
K	○各ページの冒頭に「課題をつかむ」で本時の学習内容に興味を持てるように工夫がされている。 ○重要語句には別で解説がつくなど、詳しく説明がされている。 ○文章量は比較的少なめ ○写真が古い	○本文見出しは要点を簡潔に示している。 ○「きょうの学習」で本時の導入や学習内容、まとめがわかりやすく、生徒が見通しをもって取り組めるように工夫されている。 ○資料を読み取るためのポイントが示されている。	○「課題をつかむ」では自分の意見を出す課題やグループで話し合う課題が設定されており、多様な導入発問を提示し、学習課題につながる気づきや思考を促し、主体的な学びにつながる工夫がされている。 ○コラム/事例で興味・関心をひく話題、最近の問題、実際にあったことで参考になる話題を取り上げている。 ○「保体クイズにトライ！」では生徒が興味をもって取り組めるとともに、本時の学習を振り返ることができる。	○スマートフォンや防災、SDGsなどを取り上げ、社会の急速な変化に対応できるように、生徒自身が課題解決していける工夫がされている。	○「関連」や「他教科」によって、関連する内容が教科書の他のページや他教科にあることを示しており、学習内容がさまざまなことに関連していることが生徒にとってわかりやすくなっている。 ○「ほり下げる」には、学習内容に関連した豆知識や生活に生かせる情報を掲載している。	○資料などの近くにあるQRコードを読み取ることで、教科書の他のページや他教科にある内容を深く理解できる動画視聴することができる。 ○「Web保体情報館」が掲載されており、調べ学習によく立つサイトが紹介されている。 ○「学習のまとめ」にある自分の考えや意見を書き込むことのできる「Webワークシート」を活用して、生徒同士の意見交換ができる。	○各ページの冒頭に「課題をつかむ」で本時の学習内容に興味を持てるように工夫がなされている。 ○重要語句には別で解説がつくなど、詳しく説明がされている。 ○本文見出しは要点を簡潔に示している。 ○社会の急速な変化に対応できるように、生徒自身が課題解決していける工夫がされている。
P	○今回の教科書はQRコードあり、開くと他機関と（例：農林水産省）と連携され、わかりやすい図が表示されいて良かった。 ○図も多く、文字数も適当であり見やすく、読みやすい。 ○文章と資料が近くにあるため、文章を読みながら、資料を確認することができる。 ○文章量は少なめで、見やすい	○学習の課題の定時の仕方が、【わかる】という知識を理解することと【考える】という得た知識をもとに自分や仲間と深めていくの二つに分かれていて生徒がこの1時間に何をすればよいのか一目でわかるように工夫されている。 ○今回より実習の説明の図が多くあり、とても分かりやすくなっている。（P124～P125） ○章の扉で学習することを確認し、学習の見通しを持つことができる。 ○ウォームアップやエクササイズなどの用語を用いて、課題の発見や課題の解決を促す流れになっている。 ○章のまとめでは、学習したキーワードなどを振り返ることができ、自分自身の生活に生かしたいことを考える学習ができるようになっている。	○今回より、ウォームアップで質問があり、興味・関心を掻き立てたり、考えさせられるような導入の仕方になっている。 ○今回も中学生の興味・関心の高い話題や心に響く事例等を「コラム」として掲載し、学習意欲を高められるよう工夫されている。 ○印象的な写真やイラストを使い、生徒の興味・関心が湧くような工夫がされている。 ○キャラクターが吹き出しで学習内容の整理や、発展的な学習に促している。	○学んだことを実際の場面に当てはめて考える課題を設け、教科書に解答を書き込むことで、学習内容を生活面で生かせるよう工夫されている。 ○健康であるためには運動・休養・食事が必要であるが、心を健康に保った目の内容が多くあり、最後の「学びを生かす」や「エクササイズ」では、自分の考えをまとめられるようになっている。	○探求しようでは実生活の中で起きている課題などを取り上げており、分かりやすい。（SNS、自然災害等） ○特に中学校生活と食事や薬物に関する単元では、中学生の現状や心理を考えての探求になっている。	○ページにQRコードを掲載し、外部サイトにつながり、学習したことをさらに深めることができる。	今回は各ページにQRコードがあり最新の情報を得られることが以前と最大に違うことであると思った。 ○章の扉で学習することを確認し、学習の見通しを持つことができる。 ○章のまとめでは、学習したキーワードなどを振り返ることができ、自分自身の生活に生かしたいことを考える学習ができるようになっている。

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭（技術分野）

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	○学習指導要領に示された「生活や社会を支える技術」「技術による問題の解決」「社会の発展と技術」の3要素に沿った章構成で、学習が系統的に進められるよう配列されている。(p. ③-1) ○技術分野で取り組む問題解決の学習過程や活動を巻頭のガイダンスで詳しく示し、技術分野の学習をスタートしやすいよう配慮されている。(p. 12-25)	○問題解決の題材例を見開きでまとめ、発展例をもっと問題解決」として示すなど、主体的な問題解決に配慮した使いやす構成となっている。(p. 72-77) ○各編の終末に「学習のまとめ」を設け、大切な用語をまとめることで理解の定着を図るよう工夫されている。(p. 84, 132, 194, 262)	○各編の導入で身の回りの製品や社会における技術を取り上げ、技術の見方・考え方を働かせて既存の技術の工夫を読み取ることができるよう工夫されている。(p. 26, 88, 136, 198) ○各ページの下端に「技術の工夫」を設け、技術に関する興味や関心を高めるよう工夫されている。	○問題解決の例が発展例を含めて豊富に紹介されており、生徒や学校の実態に応じて選択することができるよう工夫されている。(p. 120-125) ○安全について巻頭でふれるとともに、実習を伴うページでは「安全」「衛生」として写真やイラストを使って注意を促すよう配慮されている。(p. 8-9, 43)	○身近な製品に活用されている技術の多くが日本で開発されたことを取り上げ、技術分野の問題解決が持続可能な社会の構築に果たす役割を意識できるよう工夫されている。(p. 14-15) ○「学んだことを社会に生かす」では社会人のメッセージを掲載し、技術の学びを生かして働く人々の思いから学ぶことができるよう配慮されている。(p. 275)	○編末資料「すごいぞ！技術」では、関連する最先端の技術に携わる「技術の匠」を紹介している。(p. 264-265) ○ユニバーサルフォントの採用に加えて、淡い色彩を多用することで見やすい紙面となっている。	○各編の最後に「技術分野の学習を終えて」という項目を設け、どのような資質・能力が身に付いたかチェックできるよう構成されている。(p. 272-273) ○ガイダンスから各編で実社会をイメージしたイラストが使用され、技術分野の学習の見通しとそれぞれの技術のつながりが意識できるよう工夫されている。(p. 88-89)
C	○教科書本体では題材例に沿って製作過程を提示し、基礎技能は別冊でまとめて説明することで、基礎技能を習得しやすいよう工夫されている。(p. 54-59) ○生徒に親しみのある漫画を用いて問題解決の流れを学べるページを設け、生徒が主体的に問題解決に取り組めるよう工夫されている。(p. 36-37)	○それぞれの内容が「見つける」から始まり、学習の目的を明確にしている。(p. 16) ○「プチ問題解決にチャレンジ！」や複数の素材を用いた題材例では、作業手順を複数ページにわたり写真で示し、生徒が理解しやすいよう工夫されている。(p. 38-41) ○各編の終末に「まとめ」が設けられ、評価の観点ごとに学習内容を確認できるよう配慮されている。(p. 69, 111, 171, 245)	○各編の扉に、技術が実際に社会で利用されている様子の写真を配置することで、学習の導入時に興味・関心を高められるよう工夫されている。(p. 14-15) ○二次元コードを別冊や実習題材のページに絞って配置し、動画などの閲覧により学習内容の理解をより確かなものにできるよう工夫されている。(p. 55, 別冊p. 3) ○教科書本体や「スキルアシスト」に複数のプログラミング言語が載っており、興味をもてるよう工夫されている。	○技術による問題解決の流れを丁寧に説明することにより、生徒が主体的に問題解決に取り組むことができるよう工夫されている。(p. 8-9) ○安全について巻頭でふれるとともに、実習の前の特設ページ「実習の安全な進め方を知ろう」によって安全への意識を高められるよう配慮されている。(p. 12-13, 34-35) ○本体巻末に付いている設計計画表は実習の内容と見通しがもてるよう工夫されている。	○「技ビト」「スゴ技」といったコラムを掲載し、生徒が生活や社会の中で使用される技術について興味・関心をもてるよう配慮されている。(p. 22, 29) ○技術関係の専門高等学校に進学した高校生のメッセージを掲載し、進路について考えるきっかけとなるよう配慮されている。(p. 250-251)	○各内容の基礎技能を別冊「スキルアシスト」にまとめている。(別冊) ○図や写真、イラスト、表の資料を多く用いるとともに、本文中では資料との関連を色付きマーカーで明示し進学した高校生のメッセージを掲載し、進路について考えるきっかけとなるよう配慮されている。(p. 120-123) ○各編の終末に考えを書き込める欄があり、主体的に学習に取り組む態度の評価ができるようになっている。(p. 68, 110, 170, 244)	○各編の扉に社会で利用されている最先端技術の写真を大きく配置し、技術への興味・関心を高められるよう工夫されている。(p. 70-71) ○全内容の最後の「夢をかなえる技術」では、複数の内容を組み合わせた問題解決の実例を示すことで、学習内容を今後に生かす意欲を高められるよう配慮されている。(p. 246-249) ○各編がバランスよく必要な内容でまとめられており、指導者も生徒にとってもがわかりやすい。

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭科(技術分野)

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
D	○製作工程に沿って基礎技能を説明するとともに、「参考」で発展的な内容を示すことで、発展的な学習に対応できるよう工夫されている。(p. 76-97) ○巻頭のガイダンスで全体の学習過程を示すとともに、各章で内容ごとに学習活動を示すことで、技術分野の問題解決について把握しやすいよう工夫されている。(p. 6-17)	○単一の素材を用いた実習例が多数提示されており、実習例ごとの問題解決のプロセスが具体的でわかりやすくなっている。(p. 62-73) ○各編の「学習のまとめ」には選択、記述、作図など多様な問題があり、学んだことを確認しやすくなっている。(p. 102-103) ○二次元コードの動画や資料が学習の流れに沿って作られており、学習内容の理解をより確かなものにできるよう工夫されている。	○各編の冒頭には技術の歴史、小学校との関連、中学校他教科との関連が示してあり、学習の導入時に興味・関心を高められるよう工夫されている。(p. 26-27) ○各ページの下段に「豆知識」が設けてあり、学習意欲を高められるよう工夫されている。	○問題を発見して課題を設定するために、身近な生活や社会とのつながりを意識したイラストで考える視点が示されている。(p. 52-53) ○安全について、巻頭では望ましい行動や環境をイラストやチェックリストで確認し、実習を伴うページでは安全マークによって留意するよう配慮されている。(p. 18-19, 79)	○小学校や他教科とのつながりを各編の扉に示し、関連箇所にもマークを示すことで、学年・教科横断的なカリキュラムを編成しやすいよう配慮されている。(p. 27) ○各編の終末に「Interview」が設けられ、技術に関する職業の理解や勤労を重んずる態度を養えるよう配慮されている。(p. 104-105) ○各編の途中に「○○を読み解こう」というページがあり、生活の中にある技術や工夫について考えられるようになっている。(p. 48-49)	○鮮明で色合いの濃い図や表を多く用いるとともに、吹き出しによって注目すべき点が明示されている。 ○「命を守る防災、医療・介護の技術」が巻末にまとめて掲載され、社会の中で使われている技術について考えるきっかけとなるよう配慮されている。(p. ⑥-⑧)	○巻末に「技術分野の出口」という章を設け、3年間の学習内容を振り返り、今後を展望できるように構成されている。(p. 286-289, 303) ○各編の扉に写真を大きく配置し、技術の歴史、社会の願いや要求についてもまとめられ、学習の流れがつかみやすくなっている。 ○身近な生活や社会とのつながりについての内容が多い。

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭科(家庭分野)

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	○内容は、ガイダンス、A「家族・家庭生活」の一部、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」、A「家族・家庭生活」の順で構成されている。 ○小学校の学習内容と深くかわるところでは、二次元コードで小学校家庭科の教科書紙面が確認できるよう工夫されている。(p. 28-29)	○「生活に生かそう」「まとめよう」では、ねらいに沿ったまとめができ、次の学びにつながるよう工夫されている。(p. 31, 37) ○思考ツールを「考えてみよう」「やってみよう」「調べてみよう」なコードで小学校家庭科の教科書紙面に確認できるよう工夫されている。(p. 67, 120-121, 137, 207)	○各編の扉では、見開きの写真で興味を引き、キャラクターの言葉で問題発見、課題設定のヒントを示し、チェックできるよう工夫されている。(p. 166-167) ○紙面全てで見開き右上の二次元コードからデジタルコンテンツにアクセスできるようになっており、学習内容の日常的な利用を促す配慮がされている。(p. 147)	○巻頭に「実習を楽しく安全に進めよう」を設け、「けがの応急手当」等はイラスト入りで、「手の洗ひ方」は段階写真とともに示され、安全面に留意しやすいよう配慮されている。(p. 8-9) ○各編の「学習のまとめ」に「大切な用語の確認」を設け、基礎的な知識の定着が図られるよう配慮されている。(p. 110)	○巻末に「災害に備える」が設けられ、家庭分野ならではの防災・減災について実生活に生かせるよう工夫されている。(p. 286-287) ○巻末に「学んだことを社会に生かす」を設け、家庭分野の各内容を深めるとともに、働く人たちを学習内容別に取り上げ、家庭分野の学習と社会とのつながりを感じることができるよう工夫されている。(p. 284-285)	○折込ページを参照しながら効果的に学習を進めることができるよう工夫されている。(p. 41-47, 35) ○食物アレルギーについての資料を掲載するとともに、食物アレルギーに注意を促すマークを付け、食生活で常に留意することができるよう工夫されている。(p. 59, 76)	○巻頭で、教科書の構成と使い方、学習の進め方が丁寧に説明してあり、生徒や指導経験の浅い教員が教科書を使って学習しやすいようになっている。 ○家庭分野のガイダンスが非常に充実している。 ○各節は、目標、レッズスタート、学習課題、本文、図版、活動、まとめの活動の流れで統一され、授業の流れがわかりやすく構成されている。(p. 30)
C	○内容は、口絵のガイダンス、A「家族・家庭生」、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」の順で構成されている。 ○各章のはじめに「自立度チェック」があり、生徒が生活を振り返り生活の中から問題を見出すことができるよう工夫されている。(p. 15, 71)	○「ふり返る」では学習のままとりごとに自己評価をし、章末のまとめの「学習のふり返り」では3観点に沿った問題に取り組むことで、学習内容が確実に身に付くよう工夫されている。(p. 55, 68) ○「考えてみよう」にはロールプレイなどの体験的な活動例が掲載され、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されている。(p. 17, 24)	○「栄養素のバランスのよき、一日分の献立を考えてみよう」で使うシールがついており、視覚的に理解しやすく、食に対する興味がわくよう工夫されている。(p. 93, 巻末シール) ○紙面の下部に掲載された二次元コードの横にデジタルコンテンツ名が併記されており、アクセスしやすいよう工夫されている。(p. 19)	○実習中に地震が起きた際の身を守る行動を取り上げたり、実習時のイラストから危険な行為を考える活動を示したりと、安全面に留意しやすいよう配慮されている。(p. 12-13) ○各章末の「学びを生かそう」では、学習したことを踏まえた問題解決学習の例が示されており、学んだ知識や技能が生活に生かせるよう工夫されている。(p. 66-67, p. 78-79)	○口絵には、年中行事が月ごと写真とイラストで掲載され、伝統的な文化との関連が意識されるよう工夫されている。(口絵3-8) ○「センパイに聞こう！」や「メッセージ」では、家庭分野の学習に関係する人が仕事で大切にしていることや生徒へのアドバイスを掲載し、将来の職業や生活の参考になるよう工夫されている。(p. 35, 49)	○食品成分表や調理実習の材料に6つの食品群のマークを付け、栄養や献立の学習と調理実習のつながりを意識できるよう工夫されている。(折込⑦, p. 116) ○特定原材料を使用する料理の代替食品の例を示し、材料分量に赤の下線を引き、食物アレルギーのある生徒に対応できるよう配慮されている。(P. 116)	○各章ははじめの「自立度チェック」、小題材ごとの自己評価、章末の「学習のふり返り」は生徒だけでなく、指導者にとっても授業を進めるのに非常に有用である。(p. 15, 19, 34) ○各章末の「学びを生かそう」では、学習したことを生活に生かすための課題設定や実践がしやすいように工夫されている。(p. 66-67, 148-149)

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭科(家庭分野)

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
D	○内容は、ガイドンス、A「家族・家庭生活」、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」の順で構成されている。また、目次の二次元コードからデジタルコンテンツ一覧にアクセスできる。 ○各編の導入部分では、小学校の学びや日常生活を取り上げ、シンプルで具体的に答えやすい問いかけにより、生徒がスムーズに学習に入れるよう工夫されている。(p. 90, 184)	○各編末に見開きで「学習のまとめ」があり、イラストや写真で考える活動が示され、自分の考えを記入することにより、巻末の「生活の課題と実践」につなぐことができるよう工夫されている。(p. 86-87, 176-177) ○食生活の内容では、全題材の最後に1日の献立づくりを配置し、既習事項を生かした学習となるよう工夫されている。(p. 166)	○メジャーリーグで活躍する野球選手やLGBTQなどメデイアで取り上げられている事例を掲載し、生徒が関心をもって学習に取り組めるよう工夫されている。(p. 13, 80-81) ○食品名や材料名について、見開きを使いクイズ形式で考えさせることで、食品に対する興味がわくよう工夫されている。(p. 96-97)	○「楽しく安全に実習しよう」では、準備のポイント、イラストを見て考えるQ&Aが示しており、安全について留意しやすいよう配慮されている。(p. 14-15) ○各章の「学習のまとめ」では、イラストや写真付きの設問を取り入れることで、生徒が具体的にイメージして考えられるよう工夫されている。(p. 86-87, 260-261)	○防災について、本文での記載に加えて特設ページを設け、日常的な備えについて発展的に取り上げ、生活に生かせるよう工夫されている。(p. 248-255) ○「先輩からのエール」「地域の取り組み」では、学習内容にかかわる職業や地域の取組について紹介し、生徒の視野を広げ、社会とのつながりを意識できるよう工夫されている。(p. 32-33)	○栄養素のゆくえの図式化や実験例で目に見えない栄養素を視覚的に示すなど、実感を伴って学習が進められるよう工夫されている。(p. 100-101, 104-105) ○アレルギー物質を含む食材の情報を調理実習例に黄色マーカーで示し、食物アレルギーのある生徒に対応できるよう配慮されている。(p. 128)	○課題を解決するための手がかりや本文内容の理解を助ける科学的な資料を効果的な表現や分量・大きさで示し、生徒が関心や意欲を高め主体的に学べるよう工夫されている。(p. 100-101) ○発展的な内容を多く取り上げることで、生徒の主体的な学びを促し、視野を広げ、学びを深められるよう工夫されており、教科横断的な学習や学習後の実生活での実践意欲を高めるのに効果的である。(p. 248-255)

選 定 に 必 要 な 資 料

英語科

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	○内容、程度、分量ともほぼ妥当だと思われる。 ○1年はUnit10、2年はUnit7、3年はUnit6までで構成されている。 ○1年冒頭に、小学校で学んだ英語を使って「聞く」「話す」活動から入り、それから文字に関する内容を扱っており、小学校英語との接続を意識した内容が用意されている。 ○小中で合わせて約2,300語のうち800語を発信語彙とし、繰り返し提示して定着できるようにしている。	○「単元を貫く問い」を各Unitのタイトルに設定し、サイトに分の考えを書いてまとめられるようにしている。 ○各パートのActivityで表現したことを生かしてUnit Activityに取り組めるような構成である。 ○各学年、Unit0があり、前学年の復習をすることができる構成である。(1年Unit0は小学校の復習) ○1年のUnit1から本文語数をゆるやかに増加させ、生徒の学習負担に配慮している。	○内容理解に役立つイラストや写真がふんだんに盛り込まれ、興味・関心を広げる補足的な情報等を掲載している。 ○紙面に付したQRコードにより、アニメ映像や解説動画などを視聴することができ、楽しく自発的に学べるようなコンテンツが用意されている。 ○題材や人物の出身地は、多様な世界の国々から設定され、話題も多岐にわたるため、生徒が興味・関心を持ち視野を広げることができる。	○3回視点を変えて読む「ラウンドリーディング」という活動があり、読解のポイントを絞って英文を読み適切にかつ効率的に読む力が身につくよう工夫されている。 ○各学年の巻頭にある「学び方コーナー」には、語彙を増やしたり、まとまりのある英文を書いたりできるよう工夫されており、英作文力アップのための対応が可能である。 ○巻末に、即興で伝え合うためのSmall Talkのコーナーがあり、帯活動で活用することで「話すこと」の力をつけることができる。	○日本語で親しみのある物語を英語で読んだり、俳句と英語の伝統的な詩を比較したりするなど、国語との連携を図った学習ができるようになっている。 ○グローバル社会で生きることを意識し、海外の生活や文化を理解、尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる題材を扱っている。 ○SDGsを自分事として考える題材が豊富で、自分のできることを考え、実行できる生徒を育成しようとしている。	○単語や文法を学ぶページに、確認用のデジタルクイズが掲載されており、授業中の帯活動や家庭学習用の教材として活用できる。 ○多様な文化や価値観への気付きを促すため「ダイバーシティメモ」というコラムが設けられている。 ○1年生巻末の語順カードで日本語との違いを意識した学習ができるよう工夫されている。 ○Unit Activityでは、生徒が自分事として取り組めるよう「目的・場面・状況」が明確に設定された活動を行うことができる。	○Unit、Real Life English、Stage Activityの3つの主要単元で、知識・技能の習得と活用を繰り返しながら思考力・判断力・表現力を育成できる仕組みになっている。 ○各学年のテーマが設定され、英語学習を通して目指す「生徒の姿」が具体化されている。また、スモールステップで英語力を育成できるよう工夫がある。
D	○内容、程度、分量ともほぼ妥当だと思われる。 ○1年はPROGRAM10、2年はPROGRAM8、3年はPROGRAM7までで構成されている。 ○1年生の通常課に入る前のGet Readyで小学校英語を振り返る活動が設けられている。 ○小中で合わせて2,250語のうち約800語を重要語として太字で表記されている。	○各単元のとびらページに単元の目標が掲示されており、学習の見通しを立てられ、目標の達成状況を振り返ることができるチェック欄が設けられている。 ○学期末のまとめの活動としてOur Projectが配置され、目標に向かいスモールステップを積み重ねていく構成である。 ○Our Projectの活動内容は徐々に難易度が上がっており、生徒の発達段階に応じた学習ができるようになっている。	○イラストや写真は鮮明で数多く、生徒の学習内容の理解を助ける役割をはたしている。 ○各単元に配当されているTuning inでは、写真やクイズ、動画により、題材への導入ができる。 ○各単元ははじめのScenesで学習する文法事項がマンガ形式で導入され、視覚的に理解することができるようになっている。 ○Coffee Breakでは本文題材に関した話題等が取り上げられており生徒の興味・関心を喚起する。	○紙面上部に付したQRコードを通じて、音声を開いたり単語学習ができたりするうえ、動画視聴も可能なため、生徒の自学自習を促し、生徒は自らの学習を選択して取り組むことができる。 ○ActionやSmall Talkでメモを基に発表したり、既習事項を用いて即興で話したりする活動が設定されており、「話すこと」の力をつけることができる。	○各学年で掲載されているPower-Upでは、実生活に即した場面を設定し、相手意識・目的意識を持った表現活動を行うことができる。 ○3学年を通してSDGsに関する幅広いジャンルの題材が扱われており、教科横断的な学習をすることができる。	○巻末に、自己表現活動で使えるような単語や連語が掲載され、ジャンル分けされているため、必要な語彙を探しやすいとなっている。 ○1年生には「アクションカード」がついており、基本的な語彙・表現が定着するよう工夫されている。 ○単元ははじめのScenesでは、基本文が対話形式で示されているため、ALTとのロールプレイ形式でモデル対話を示すことができる。	○各単元末のActionや、パフォーマンス活動であるOur Projectなど、コミュニケーション活動が充実しており、チーム・ティーチングをしやすい構成になっている。 ○Scenesに出てくる新出表現の習得と活用を経て、身近な話題や社会問題について書かれた本文を読み、それについて思考・表現することで思考力・判断力・表現力を育成できる構成になっている。

選 定 に 必 要 な 資 料

英語科

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
F	○内容、程度、分量ともに適切である。 ○語数は全部で2,296語扱っている（小学校既習語669語、中学校新出語1,627語）。 ○そのうち小学校既習語から374語、中学校新出語から408語の合計996語を「発信まで使えるようになりたい語」と設定し、教科書内に太字で掲載されている。 ○CEFR-Jやコーパスなどを分析して掲載すべき語彙を精選している。	○各単元はPart1～2,3プラスGoal Activity, Language Focusで構成されている。（各PartにScenel,2があったりなかったり） ○Part1～3を通しての文章量は他の教科書と比べると少なめである。 ○Take Action!(Read)では、長文を読む活動ではなく、ウェブサイトやポスターなどから必要な情報をスキミングする活動が組み込まれている。 ○各単元の新出文法がシンプルにまとめている。	○各単元やTake Action!のページでの場面設定が自然で、生徒が興味・関心をもちやすい。 ○さまざまな文化や習慣について取り上げられている。また、生徒の身近な話題や興味のある話題も多く取り上げられている。（マンガやアニメ、インド映画、外国の学校生活、災害など） ○Small Talk Plusのページでは、段階を踏んで会話（やり取り）する際の技能を身につけることができる。帯活動のSmall Talkをレベルアップさせられる。	○Take Action!のページでは、リアルな場面や状況に応じて、聞く・話す・読む活動を行うことができる。 ○Take Action!のListenとTalkが続けて掲載されている場合、同じ場面設定で作られていることが多い。場面設定がとても自然。 ○アウトプットする際のコツを学ぶことができる（考えを整理する、発表するときの話し方の工夫など）	○社会や理科だけでなく、音楽や保健体育、道徳、技術と関連する単元がある（主に3年生）ため、他教科との連携を図りやすい。 ○キャリア教育につながる題材も多い。 ○登場人物の性格やプロフィールが多様性に富んでいるため、生徒が実生活では経験しにくい食習慣や食の多様性などにも触れられる。	○生徒の学習形態に合わせて、具体的な学び方を考えたり、文法事項などを整理したりするページがある。語彙、音読、英語での表現方法など、さまざまな観点で「学び方」を紹介している。 ○単元末の言語活動Goal Activityが決まっているので、単元計画を作りやすい。半面、単元末の言語活動を工夫して自作したい教員にとってはさらに時数を確保する必要があるかもしれない。	○全体的に、文法を学ぶため目的・場面・状況ごとに、実生活におけるというより英語を運用する力をつけるための教科書、という印象を受ける。教科書「で」英語を教えることができる。 ○単元末の言語活動Goal Activityが良い。単元末に読む活動が設定されいときには、読むだけで終わるのではなく、読んだ内容について話す活動も組み込まれている。半面、聞く活動が設定されている単元はなく、読む活動と書く活動が圧倒的に多い。 ○英語を運用したコミュニケーションの「本番」までができる教科書。
G	○小中接続を円滑に行うために、1年初期に丁寧な導入ページが用意されている。語彙は小学校の既習語600語、中学校の1688語の計2283語である。うち900語を発信語彙としている。 ○3年間で7つの読み物教材に加えて6つの発展的な読み物教材がある。内容も物語から道徳的な内容まで多岐に渡っている。	○1年の早い時期に過去時制を配置したり、3年の後期には新出文法を配置せずにディスカッションやディベートに特化した単元を用意するなど、3学年を通じて特徴的な構成となっている。 ○部活動などといった身近な題材から、環境問題やSDGsな題材に目を向けたものが散りばめられている。	○各学年で年間3回配置されているProjectは、それまでのLessonで学んだ内容が活かされる構成となっている。単元の目標と併せて、Projectの目標を示すことで、長期的な目標意識を持つことができる。 ○著名なスポーツ選手やアニメなど、生徒たちにとって関心のある題材を取り入れており、興味深く学習にとりくめるようになっている。	○充実したデジタルコンテンツは子どもたちの一人一人の自立的な学びを支えるように工夫されている。新出語句の学習用シートややりとりの見本動画などは家庭学習でも役に立つものである。 ○日本国内外の文化、環境・エネルギー問題、ユニバーサルデザインやSDGsなど子どもたちの視野を広げる題材が多岐にわたって用意されている。	○国語、社会、理科や道徳など他教科に関連した題材が多く、他教科で学習したことを生かしたり、学習したことを他教科に生かすことができる。 ○環境問題やエネルギー問題、SDGsなど、これからの社会を担う子どもたちに考えてほしい題材が豊富に掲載されている。	○各Lessonの初めに「内容理解」「活動」の2つのゴールが明示されていることで、子どもたちは目的を持って学習に取り組むことができる。 ○1年生ではSpring Board、2,3年生ではReview Lessonが設定され、小中接続や学年間のつながりを意識した構成になっている。	○独自の文法配列が特徴的であり、この特徴を理解したうえで活用することで、生徒たちの言語能力の向上を図ることが期待できる。 ○環境問題やSDGsなど、現在、必要不可欠な題材に加えて、補助犬などの独自の視点による題材も含まれている。生徒たちの視野を広げることが期待できる。

選 定 に 必 要 な 資 料

英語科

N O . 3

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
I	○内容、程度、分量ともほぼ妥当だと思われる。 ○各学年を大きく3つのまとまりに分け、全体はUnit8までの構成である。 ○1年冒頭で、小学校の既習事項を振り返り、中学校の学びへ円滑につなげるための導入教材Let's Be Friends! が用意されている。 ○総新語数は1,659語のうち、発信語彙の目安となる重要語484語を設定し、小学校の既習語578語を繰り返しの学習語として設定している。	○Unitは、扉・Part・Goalの3つで構成し、単元の目標を具体化したGoalの活動に向けて学習を進められるよう各活動が設定されている。 ○各Unitの紙面構成が統一されており、同じ種類の情報を決まった位置に配置されている。 ○題材は、発達段階を考慮し、身近な題材から徐々に視野を広げ、3年時では社会の様々な問題について考えを深められるよう配慮されている。	○大判のイラストや、鮮明な写真を用いたり、1年のUnitは扉は見開き2ページの構成にしたりと、題材への興味付けを図っている。 ○巻末付録の「英語の学び方ガイド」には、生徒からの学習法に関する質問に対する具体的な回答が載っており、学習への意欲を喚起する。 ○各学年の巻頭の折り込みページで、学びのサイクルの例や動機づけのための情報が掲載されている。	○巻末で、英語の学習にも有用な考え方と思考ツールが、具体的な活用例とともに紹介されており、生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすことができる。 ○巻末のLet's Talkは帯活動で活用できるうえに、QRコードを通じてランダムに提示される質問に答えることができ、即興で話す力を家庭で養うことができる。 ○巻末のStory Retellingでは、キーワードやイラストをヒントに英文を再構成して話す力を育てることができる。	○小教材のDaily Lifeでは注文や道案内といった実社会の言語使用場面で有用な表現を導入したり、イベントのチラシ等の素材を取り上げている。 ○持続可能な社会について自らが考え、行動を起こすきっかけとなるように、SDGsに関する題材が幅広く取り上げられている。	○1年の巻頭に配置されたSounds and Lettersで発音の綴りとルールを学ぶことができ、帯教材として活用すれば反復して単語や文を読むための基礎的な力を身につけることができる。 ○まとめの活動であるYou Can Do It!は、Unitとの系統性を意識して構成されている。 ○3年間を通じて「できるようになること」を系統的に設計しているとともに、既習事項をスパイラルに活用できるよう構成されている。	○各Unitでは身につける力をGoalとして明示し、GoalとYou Can Do It!には振り返りのコーナーを用意することで自身の達成度を評価でき、次の言語活動への意識づけもする工夫があり、主体的な学びが進められるよう配慮されている。 ○扉とGoalに目的・場面・状況を明示し、中間振り返りの観点も示され、目的・場面・状況に応じた思考・判断・表現ができるように工夫されている。
L	○内容、程度、分量ともほぼ妥当だと思われる。 ○1年はUnit10、2年はUnit8、3年はUnit7までで構成されている。 ○1年のUnit5までを小中接続期としており、小学校で「聞く」「話す」を中心に英語を学んできたことを踏まえて、目標を「聞くこと」「話すこと」を中心に設定している。 ○3年間で約2,400語(小学校既習語を含む)に触れられるようにし、そのうち、約1,040語を重要語として示している。	○Unitのとびらで目標を確認し、各PartはListen, Speak, Writeの流れで構成されており、同じ流れで活動することで新出表現を学ぶことができるよう工夫されている。 ○目標確認→指導→自己評価という流れで、最後に目標達成度を自己評価できる構成である。 ○題材は、日常的話題(部活動・学校行事等)から社会的な話題(環境・人権・共生等)まで、多様な題材を3年間で扱っている。	○イラストや写真がふんだんに盛り込まれ、題材への興味づけが図られるとともに、余白部分、行間スペースも十分にとられており、文章が読みやすくなるよう配慮されている。 ○4人の異なる性格、趣味、特技を持った中学生を中心に話が進められ、登場人物を身近に感じながら英語を学ぶことができる。	○「英語の学び方」コーナーでは、語彙・音声・表現の観点から、学習に役立つコツが紹介されており、自律的学習者を育成するための工夫がある。 ○Enjoy Chattingで本文に関する問いに基づいてペアやグループでやりとりをすることで、即興的にやり取りをする力を育成することができるとともに、題材について考えを深めることができる。	○英語圏以外も含めた外国文化の紹介や他教科との連携(国語科、社会科、理科、美術科等)を図り、教科横断的な学習ができるようになっていく。 ○Let's Listen, Let's Talkでは日常的な場面の対話を聞き取ったり、リアルな状況に応じたやり取りをしたりすることができ、実生活に即したコミュニケーション能力を育成することができる。	○各学年にProjectが配置され、Unitで学んだ内容を活用しながら、生徒が実際の使用場面を想起して技能・統合型の言語活動を行うことができる。 ○Unitを通しての目標がInputとOutputの技能それぞれで設定されている。 ○巻末のWord Boxでは、活動の際に役立つ語彙・表現をジャンルごとに掲載されており、自己表現等に生かすことができる。	○コミュニケーション活動の基礎となる知識・技能を、段階を踏んで確実に習得できるように学習場面が設定されている。 ○各Unit末のThink&Speak/Writeには、Unitで学んだ言語材料を使って場面や状況に応じて思考・判断・表現する活動が設けられている。 ○QRコードを通じて本文のアニメーション映像を見ることができるとともに、動画の再生速度調整や字幕切り替えなど、生徒が主体的に学習が進められる工夫がある。

選 定 に 必 要 な 資 料

特別な教科道徳

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	○35時間分の教材と4時間分の付録が用意され、各校の実態に合わせて柔軟に指導できるようになっている。小学校道徳教材を配置し、生徒自身の道徳的価値のとらえの変化を感じながら学習できるよう工夫されている。 (1年p. 172-174) ○全学年の巻頭ページに1年間の流れや授業の流れを示し、生徒が学習活動をイメージしやすいよう配慮されている。(全学年p. 2-7)	○全学年で「いじめのない世界へ」についてユニットが組まれている。またユニット「いのちを考える」では、防災の視点を取り入れた教材が扱われ、重点的に学習できる構成となっている。 (3年p. 24-39, p. 73-76) ○各教材末の「考えよう」「見つめよう」「ぐっと深める」では、教材の内容と実生活の両面から思考を深められるよう問いが工夫されている。(1年p. 11)	○3年間を通して同一の登場人物が成長していく姿が描かれ、興味を引く工夫がされている。 ○NHK for Schoolの道徳番組が教材化されている。番組と合わせて教材を読むことで学習内容が理解しやすくなっている。(1年p. 120-123) ○各学年に15本程度のコラムが用意され、ソーシャルスキルや体験的な学習などを通して、考えを深められるよう工夫されている。(2年p. 138)	○年度初めにいじめを題材にした内容をユニットにして配置している。様々な立場からいじめについて考え、いじめ問題を多面的・多角的に捉えることができるよう工夫されている。(1年p. 22, 33) ○情報モラルを題材とする教材が、全学年に複数用意されており、多面的・多角的に考えを深めることができるよう工夫されている。(2年p. 54, 56)	○巻末付録に「教材一覧表」が設けられ、道徳科と他教科等との関連を把握しやすいようにまとめられている。(1年p. 190, 191) ○現在社会で活躍している人物を取り上げ、様々な生き方や考え方にふれることで、生徒が自分の将来やキャリアについて考えることができるよう工夫されている。(3年p. 122-125)	○全学年の巻末に心情円を付属しており、生徒が思いを可視化することができる。また生徒同士で心情円を比較することによって、多様な考え方があることに気づくよう工夫されている。	○教材末に「ぐっと深める」が設定され、中心発問や自己を見つめる発問で考えたことについて、多面的・多角的に考えを深めることができるよう工夫されている。(1年p. 11) ○各教材末の「つぶやき」や巻末の「自分の学びを振り返ろう」が用意され、生徒の考えが記録できるよう工夫されている。(1年p. 10, 193)
G	○内容項目を充足する30時間分の教材と、自作教材等と差替え可能な補充教材5時間分が組み立てられ、学校独自のカリキュラムを作成することができるよう工夫されている。(全学年目次) ○巻頭の「さあ、道徳を始めよう！」では、道徳科の学び方や話合いのポイントが示されており、生徒が学習の見通しをもてるよう工夫されている。(1年p. 4-7)	○教材名の下に導入の問いが示され、教材を通してどのようなことを考えていくのか、生徒が見通しをもてるよう工夫されている。(3年p. 18-25) ○1年から3年まで、友情を題材に同じ人物が登場する教材が設けられている。生徒の発達の段階に応じて考えることができるよう工夫されている。(1年p. 134, 2年p. 120, 3年p. 86)	○海士町出身の井手上漠さんの作文をコラムで取り上げ興味・関心を高めながら多様な生き方に対する人権感覚を育成することができるよう工夫されている。(1年p. 156, 157) ○写真、絵本、漫画等、多様な方法で内容の理解を支援する教材が用意されており、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(1年p. 8-11)	○「いじめをなくそう」「いのちをかがやかせる」「つながり合って生きる」では、複数の教材やコラムをユニット化し、多様な教材から考えを深まるよう工夫されている。(全学年p. 2-3) ○情報モラルについて考える教材を学年ごとに系統的に扱っており、学びを積み重ねていくことができるよう工夫されている。(1年p. 38-41)	○全学年「内容項目別教材一覧表」で、各教材と他教科等との関連を示し、学校教育活動全体を通じて道徳教育が進められるよう工夫されている。(1年p. 200, 2. 3年p. 192) ○「若者議会」は、社会科や特別活動と関連付けて学習を深めることができるよう工夫されている。(3年p. 118-121)	○B5判で見やすく、教名の下に二次元コードにアクセスすると、「教材解説」として教材の要約が示され、内容を理解することができるよう工夫されている。	○1年間の学びをもとに、「よりよく生きる」ことについて考えたことを記録できるページが用意されており、3年間を通して生徒自身が成長を実感できるよう工夫されている。(1年p. 196, 197, 2. 3年p. 188-189) ○各教材に導入となる問いが示されている。また「学びの道しるべ」に3つの問いがあり、考えを広げたり深めたりできるよう工夫されている。(1年p. 8, 11) ○A4版

選 定 に 必 要 な 資 料

特別な教科道德

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
I	○1、2年各35時間分、3年34時間分の教材がテーマに沿ってユニットとして組まれている。異なるいくつかの内容項目で構成され、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(1年p. 60-81) ○どの学年にも巻頭にオリエンテーションのページがあり、1年間の学習の見通しがもてるよう工夫されている。(1年p. 6, 11)	○複数の教材をまとめたユニットを構成し、目次に示している。学校生活に寄り添ったユニットテーマが設定され、道德教育が学校教育活動全体を通じて行われるよう工夫されている。(全学年p. 2-3) ○「まなびをプラス」で前題材の学習とのつながりを示し、考えを深めながら学習できるよう工夫されている。(1年p. 44)	○海士町出身モデルの井手上漠さんのコメントを掲載し、身近な有名人の生き方にふれ、多様な生き方について深く考えられるよう工夫されている。(3年p. 71) ○絵本作家ヨシタケシンスケ氏の書き下ろし「なんだろうなんだろう」やコラム「やってみよう」に「今日の『てがつく』」を掲載し、考えを深め合うことを楽しめるよう工夫されている。(2年p. 82-84)	○ユニット「いじめを許さない心について考える」が設けられており、年度初めに全学年でいじめ問題について考えることができるよう工夫されている。(2年p. 36-45) ○情報モラルについて連続して複数の教材が配置され、「まなびをプラス」と合わせて深く考えられるよう工夫されている。(2年p. 85-92)	○各教材の「つなげよう」では、関連図書の紹介等が掲載され、他教科との関連を意識したり、日常生活に学びが広がったりするよう工夫されている。(3年p. 137) ○付録の「教材別テーマ一覧」「この教科書が目ざした年生の姿」により、道德科と現代的な課題や各教科等との関わりをとらえられるよう工夫されている。(1年p. 182-184)	○付録の「まなびの道具箱」では、各自で考えるときや話合いのときに、考えを広げたり、分類・整理したりするための思考ツールが示されている。(1年p. 180, 181) ○段組みで、読みやすく矢印で示してあり、配慮がされている。(2年p. 66, 67)	○巻末に「まなびの記録」が設けられ、1年間の学びを振り返ったり、なりたい自分の姿をイメージできたりするよう工夫されている。(全学年巻末) ○各教材の「考えよう」では、めあてと2つの問いが示されている。何を学ぶのか意識できるように、「見方を変えて」や「つなげよう」の問いもあり、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(1年p. 14)
O	○35時間分の教材が用意されており、学校の年間行事や生徒の発達の段階を踏まえて、教材・コラムがバランスよく配列されている。 (全学年目次) ○巻頭の「道德科での学びを始めよう!」では、道德科を学ぶ意義や学習内容、学び方が掲載され、見通しをもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。(1年p. 4-7)	○全学年で「よりよい社会を考える」「いじめと向き合う」がユニット化されていて、1年間を通じて学習できるように工夫されている。また、2つのユニットは、年間を通して複数の教材から多面的・多角的に考えられるよう構成されている。 (全学年目次) ○「学びを深めるヒント」では、付箋を使ったり、イラストを比較したりすることで、対話的・協働的な学びができるよう工夫されている。(1年p. 89)	○実在の人物を扱った教材が設けられ、「あすへのメッセージ」として、中学生に贈る書き下ろしのメッセージがあり、考えを深められるよう工夫されている。(3年p. 93) ○海士町出身の井手上漠さんをしっかりと題材として取り上げ、個性を尊重することの大切さについて考えられるよう工夫されている。(3年p. 90-93)	○各学年の6つの教材に付随している「学びを深めよう」には問題解決的な学習や体験的な学習など学習の流れが示しており、見通しをもって学習できるよう配慮されている。(3年p. 139) ○全学年に情報モラルに関わる教材、コラムが掲載され、発達の段階に応じて多様な教材から学習できるよう工夫されている。(2年p. 76-81)	○巻末には「内容項目別教材一覧」が示されており、教材と他教科等との関連やいじめなどの「テーマ」との関連が図られるよう工夫されている。(1年p. 176-巻末) ○コラム「視野を広げて」が各学年に7つずつ配置されており、生徒の実生活に即した内容を扱い、学びが広がるよう工夫されている。(2年p. 22-23)	○別冊「道德ノート」は発問を記入する欄や、自由記述欄が設けられ、指導者の授業展開によって柔軟に活用できるよう工夫されている。	○各教材末の「考えてみよう」には、ねらいに迫る問いが示されており、さらに「自分に+1」の問いを用いて、自分事として考えられるよう工夫されている。(3年p. 47) ○別冊「道德ノート」は教科書本冊に対応しており、発問や自分の考え、振り返りを記述する欄があり、学びを記録することができるよう工夫されている。

選 定 に 必 要 な 資 料

特別な教科道德

N O . 3

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
P	○35時間分の教材が用意されている。教材に応じて補充資料「クローズアップ」を配置し、教材の関連情報が掲載され、広く学ぶことができるよう工夫されている。(全学年目次) ○巻頭の「道徳科で学ぶこと考えること」では考えを広げたり深めたりするための方法や、学習の流れが示されており、多様な方法で学びを深められるよう工夫されている。(全学年p. 8-9)	○「SDGs」「キャリア」「多様性」の3つがユニット学習として用意されており、それぞれを内容項目の異なる教材から構成することで多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(1年p. 46-61) ○各教材で主題名を示さないようにすることで、生徒自身が自ら課題を見つけ考えられるよう工夫されている。	○全ての教材名の下に「キーフレーズ」を入れ、授業の導入時に生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。 ○大田市三瓶町での出来事を取り上げた教材「金色の稲穂」が設けられている。県内の題材を取り上げることで、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(1年p. 90-93)	○いじめについて様々な立場から考えられるよう、「青のオーケストラ」など複数の教材を配置している。(2年p. 122, 129) ○「情報モラル」を考える教材は、SNSの使い方等身近な題材が扱われ、自分事として考えを深められるよう工夫されている。(2年p. 108-111)	○教材の発展的な内容や他教科との関連を図った内容、関連書籍が「クローズアップ」の特設ページで掲載されている。(3年p. 94-95) ○著名な人物のライフスタイルを題材として取り上げ、「デジタルとのつきあい方」について深く学べるよう工夫されている。(3年p. 10-12)	○しっかりとした内容の教材が多く、実態に合わせた発問の工夫ができるような内容となっている。(全学年)	○各教材の「考えよう」では、ねらいに迫る問いが2つ用意されている。また、「深めよう」では教材をもとに考えを深め、広げることができるよう工夫されている。(1年p. 144-145) ○学期ごとの学びを振り返る「学びの記録」や1年間を振り返り、次年度に生かす「未来への扉」を記入することで、自己の変容を生徒自身が確かめることができるよう工夫されている。(1年p. 180-181)
T	○学校の教育活動や年中行事との関連を考慮して35時間分の教材が配列されている。またユニットを組み、重点項目について生徒の考えが深まるよう工夫されている。(全学年目次) ○全学年、最初の教材に「道徳 はじまりの時間」が設けられ、道徳科での1年間の学びの指針が発達の段階に応じて学年ごとに示されている	○現代的課題をテーマとし、「『いじめ』『キャリア』など複数の課題を考える」等、連続する複数の教材をユニット化し、テーマについて様々な視点から考えを深められるよう構成されている。(全学年目次) ○1つの学年につき3つの「MY PLUS」が設定されており、役割演技や話し合い活動を通してより深く考えることができるよう工夫されている。(1年p. 34-35)	○3年間で全都道府県の情報を取り上げられている。「ふ」とに学びを広げよう」では、島根県の石見銀山遺跡とその文化的景観が紹介され、地域への興味関心が高まるよう工夫されている。(3年p. 182-183) ○現在活躍する人物を扱った教材や漫画で読み解く教材があり、生徒の興味・関心が高まるよう配慮されている。(3年p. 10-13, 24-27)	○実際に起きた事件を情報モラル教材として取り上げ、生徒が自分事として考えを深められるよう工夫されている。(1年p. 64-67) ○「おかしな礼儀」では日常生活の場面を取り上げ、あいさつやマナーについて、その意義やあり方について深く考えられるよう配慮されている。(1年p. 14-17)	○「Thinking」というコラムページが、各学年8～10本用意されている。教材で学習したことを深めたり、広げたりするとともに、実生活につながるよう工夫されている。(2年p. 58) ○巻末の「内容一覧」では、各教材と他教科等との関連が示され、道徳科との関連が図られるよう配慮されている。(1年p. 184)	○読み物資料として考えさせる内容の題材が多く、発問の工夫等ができるような内容となっている。(全学年) ○全ての教材の終末に「自分との対話」が設けられており、教材での学びを踏まえて自分を問い直すことができるよう工夫されている	○生徒が先入観をもたずに教材と出会うことができるよう、冒頭部分には内容項目の視点のみを掲載し、主体的に考えを深めることができるよう配慮されている。(1年p. 12) ○巻末には「学習の記録」のページが設けられ、各学期や1年間の学びを振り返り、生徒自身が自己の学びの変容を捉えられるよう工夫されている。(1年. 巻末)

選 定 に 必 要 な 資 料

特別な教科道徳

N O . 4

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
U	○ガイダンスと34時間分の教材が学習指導要領の内容項目順に配置されている。 ○各学校の年間計画に応じて扱う教材の順番を組み立てて学習することができるよう工夫されている。 ○全学年巻頭にガイダンスページが設けられ、前学年の学習の振り返りや授業の進め方が示してあり、生徒が見通しをもって学習できるよう工夫されている。(全学年p.4)	○主題を章の扉にのみ示している。各教材で主題名を示さないようにすることで生徒が先入観をもたずに学習に取り組むことができるよう配慮されている。(3年p.79) ○全学年巻末に「ウェルビーイングカード(厚紙仕様)」が設けられ、学習の中で生徒自身が大切にしたい価値を意識したり、生徒同士で議論したりできるよう工夫されている	○3年間で同一の登場人物がいたり、漫画の吹き出しのセリフを考えたり、教材の導入に4コマ漫画を配置したりして、生徒の興味・関心が高まるよう配慮されている。(2年p.107,110,3年p.7) ○「情報モラル」について考える教材は、SNSでの誹謗中傷や生成AIを用いた宿題の取組等、身近な課題が設けられ、深く考えられるよう工夫されている。(2年p.12-15,3年p.84-87)	○様々な立場から「いじめ」について考えることができるよう教材が配置され、生徒がいじめについて考えを深めることができるよう工夫されている。(3年p.75-78,84-87) ○「マダム・バタフライ～森英恵～」では、島根県出身の森英恵さんの信念を紹介し、自身のルーツを大切にす態度を育むことができる教材が取りあげられている。(1年p.112-115)	○キャリア教育の視点から、これからの生き方を考える教材が多数掲載され、学年ごとに発達段階を考慮したテーマが採用されている。(3年p.40-43) ○「環境や資源」をテーマとした教材が用意され、理科と関連させながら生徒が多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(1年p.136,139)	○紙面の余白が多く、情報量が少ない紙面もあり、読みやすい工夫がされている(全学年) ○哲学者の格言にふれながら、「自由」「幸福」「愛」について考え、議論する教材が各学年1つ取り上げられ、生徒の考えが深まるよう工夫されている。(1年p.36-40,2年p.34,38,3年p.44-48)	○ウェルビーイングカードを用いて生徒が自分の考えを整理したり、生徒同士が議論したりできるようにし、対話的な学びの実現が図られるよう工夫されている。(1年p.156) ○内容項目ごとに教材を配列し、各学校の年間指導計画に基づいて教材を並び替えやすいよう工夫されている。(全学年p.1)